

平成二七年度

長岡造形大学

デザイン研究開発

Design Research and Development  
Nagaoka Institute of Design

## 目次

はじめに .....	3
27年度 受託プロジェクト報告 .....	5
アロマディフューザー開発業務 .....	6 - 7
小国和紙・曲げわっぱコラボ商品提案業務 .....	8 - 9
地域木材を活用した木製品の開発における森の循環や地域の林業振興にかかる研究 .....	10 - 13
マイクロ水力発電展示会 PR 映像制作 .....	14 - 15
長岡市都市景観賞銘板制作業務・長岡市都市景観賞銘板制作追加業務 .....	16
北越銀行支店デザインに関するアドバイス業務 .....	17
平成 27 年歴史的建造物詳細調査業務 .....	18 - 21
平成 27 年鍛冶ほか工場歴史的建造物調査業務 .....	22 - 25
妻入り家屋整備・活用計画策定支援業務 .....	26 - 29
文化財登録に係る建造物調査業務 .....	30 - 33
小千谷市歴史的建造物調査業務 .....	34 - 37
歴史的建造物詳細調査業務委託 .....	38 - 41
小千谷市人口ビジョン及び総合戦略策定支援業務 .....	42 - 45
おぐに森林公園試験的な森づくり提案書作成業務 .....	46 - 47
デザイン研究開発について .....	49
プロジェクト担当教員 .....	50 - 51
デザイン研究開発の相談について .....	52

## 平成27年度の長岡造形大学デザイン研究開発の報告をいたします。

平成26年度より、長岡造形大学は公立大学法人として生まれ変わりました。それに伴い、地域におけるデザイン研究開発のあらゆるニーズを受け止め、一層の地域連携を深める目的で、関連事業を「地域協創センター」に統合した新体制で運営しています。

本年度の受託プロジェクトを見渡すと、製造業の低迷や一次産業の衰退、過疎化・高齢化・人口流出、新しいエネルギー源へのニーズなど、地域が抱えているさまざまな社会 이슈に対して、デザインの役割や、学生の柵のないアイデアを期待され、受託した案件が多いことがわかります。今後もこうした地域の社会的課題に、地元のデザイン研究開発機関として積極的に協働していきたいと思っております。その取り組みの中で、当事者が気づいていない地域価値を発掘、あるいは新たに創出、さらには発展していくことが理想的であると言えます。

活動の詳しい内容はこの報告書をご覧ください。活動として、地域協創センター受託プロジェクトの仕事は、各主査の専門性をベースにしてクライアントの皆様からの信頼を積み重ねて進めることが肝要であると感じております。その意味で昨年度からの継続受託、あるいは来年度以降も継続希望の案件が多いことは、プロジェクトを通じて本センターが目指すデザインの役割が理解され、着実な成果に対して期待の表れだと理解しております。

社会における「価値」の基盤が有体（モノ）から無体（コト）へ移行している現状において、必然的に知的創造活動による付加価値化が競争力を左右するようになり、知財価値の考え方が大きく変化してより重要視される方向にあります。日本においてはいわゆる先願主義が採用されていますが、意匠制度では部分意匠制度、関連意匠制度、組物意匠制度、秘密意匠制度、動的意匠制度などの特殊な制度が設けられており、このような制度をいかに利用するかがデザインにおける価値戦略を大きく左右するようになってきました。私もこのことを重要課題として受け止めており、外部アドバイザーの知見も得ながら体制整備をしております。教員や学生が、プロジェクトを通じて創出した知的財産を適切に管理して積極的に利活用していきたいと考えております。

最後になりますが、委託いただいたクライアントの皆様への深いご理解に感謝いたします。また、関わられた主査の教員はじめプロジェクトメンバーの皆様方は本当にお疲れ様でした。今後とも地域協創センターの活動をご理解いただき、ご指導とご協力をお願いいたします。

平成28年8月

長岡造形大学  
地域協創センター長  
金澤 孝和





27 年度

受託プロジェクト報告



## アロマディフューザー開発業務

発注者：株式会社クワバラ

受託期間：平成 27 年 10 月 27 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：増田 譲（プロダクトデザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：小田島 瑛真、川上 早百合

### 1. プロジェクト概要

長岡市関原の株式会社クワバラは創業以来、主に工業製品の部品試作、アクリル・金属の彫刻銘板の受注製作を行ってきた。しかし近年の不況によって業績が低迷した事から、長年培ったアクリル加工技術を活かし、従来の下請け型のビジネス以外に自らコンシューマー製品の開発・販売を行う事を目指し、平成 27 年度長岡市 3 大学 1 工専ワンポイント活用事業補助金の助成を受け、長岡造形大学がアクリルを使ったコンシューマー製品のデザイン開発業務を受託する事となった。

### 2. 実施状況及び成果

平成 27 年度に 10 月よりデザイン開発業務を開始した。それまで(株)クワバラが独自に模索したコンシューマー商品、コマ、パズルなどの玩具製品を見ながらヒアリング、打ち合わせを行った。これらの試作品は玩具であるものの、熟練の職人がひとつひとつ手作りで製作するため、作業時間から計算して販売価格 2 万円以上になり、製品のバリューと価格差が大きすぎ現実的には売れない物であった。(株)クワバラは手作業でのものづくりが基本であり、大量生産する会社ではないことから、逆転の発想で 2 万円以上で売れる物は何かというポイントでアイデア出しを行った。結果、玩具ではなく、照明器具やインテリア調度品として機能やデザインの審美的な価値を持った製品を提案する事にした。

しかし、(株)クワバラは電氣的、機械的な機能をもった製品を製作・販売した経験がなく、製品保証の問題がネックとなり、照明器具などの電氣的な製品は見送り、機能ではなく、製品の外観デザイン・品質感の高さに付加価値を持たせる手法に特化してアイデアを模索する事にした。

そしてアクリルのプラスチックっぽさを感じさせない高級感のある見せ方として、様々な色の板を積層させて削り、カラフルで尚且つアルミニウム、木材と合わせることで素材のコントラストで高級感を出す手法に行き着き、今回、インテリア製品として一輪挿しの花瓶としても使用出来る小型の瓶型のアロマディフューザーを開発することとなった。アロマディフューザーは、女性に人気がある芳香オイルを拡散させる調度品であり、都内インテリアショップでも定番の商品であり、贈答品としても需要が見込める。

具体的なデザインプロセスとして Adobe Illustrator によるデザイン案（図 1）を制作し、デザインのコンセンサ

スを得、その後に 3 次元 CAD データ（図 2）2 次元 CAD データ（図 3）を作成し、そこから一次試作（図 4）を経て、2 次試作をカラーバリエーション各一台、計 2 台（図 5）をパッケージ付きで製作し、本年度のデザイン開発業務は完了した。

平成 27 年度の本プロジェクトの成果としては、本デザイン手法で製作が可能である事と、外観的に 3 万円という価格でも販売が見込める高級感が達成でき、(株)クワバラのコンシューマー商品開発への道筋がつけられた事と考える。



図 1 デザイン案

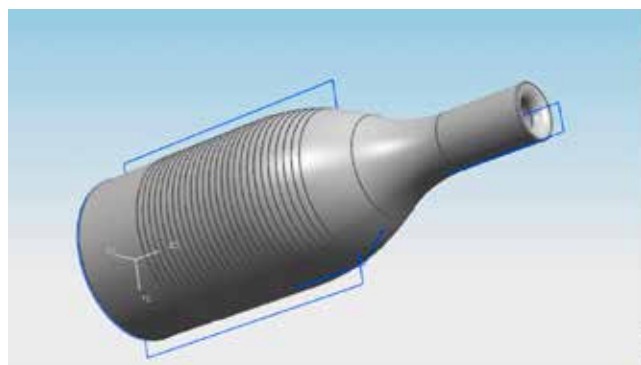


図 2 3 次元 CAD データ

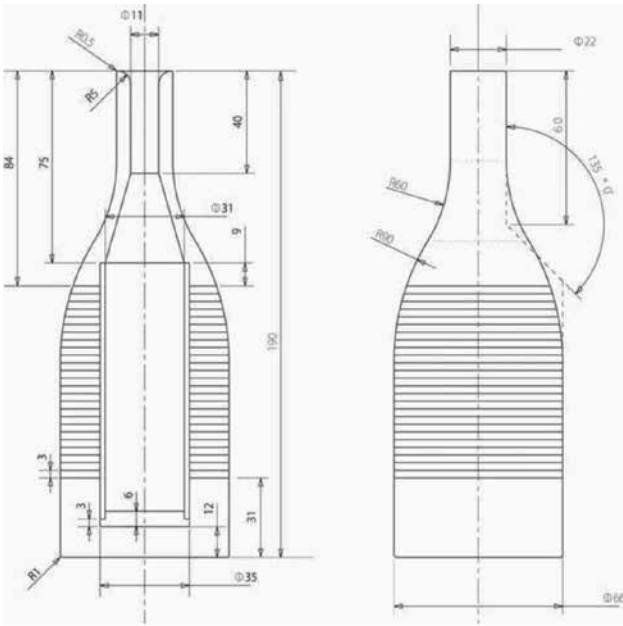


図3 2次元CADデータ



図5 2次試作



図4 1次試作

## 小国和紙・曲げわっぱコラボ商品提案業務

発注者：有限会社小国和紙生産組合

受託期間：平成27年10月9日～平成28年3月31日

プロジェクト主査：金澤 孝和（プロダクトデザイン学科 准教授）

プロジェクトメンバー：青山 祥廉、小林 智恵子、田澤 雄基、渡邊 祥子、渡邊 有花子

### 1. プロジェクト概要

小国和紙生産組合と足立茂久商店（寺泊で篩<sup>ふるい</sup>や裏漉しなどの曲げ物などを製造）は、ともに伝統的なものづくりを若手の職人が継承している。いままで業種の違いで仕事としてあまり交わることのなかった生産者が協働して、伝統を大切にしながら新しい生活用品の開発を模索する中、デザインの大学としての知見と、柵のない学生アイデアを本学に期待されて受託したプロジェクトである。なお本件は、有限会社小国和紙生産組合が長岡市の3大学1高専ワンポイント活用事業補助金に応募・採択されて調査を含めたデザイン面で協力をおこなっている。

### 2. 実施状況

実際の業務に入る前段階で、製造工程を学ぶ機会を設けた。実際に原料の染色、紙を漉くなどの体験を通して可能性を模索し、アイデア展開につなげた。そこで、

- (1) 曲げ輪で紙を漉く道具を作ったときの可能性と、その道具で漉いた紙の活用方法提案
- (2) 曲げ輪×和紙での新しい商品提案

展開は大きく2つのアプローチとして、できるだけ多くのアイデアを出すよう心がけた。その中からコンペディション形式で採用案を選定して、実際に使用できるレベルの試作品を製作した。







### 3. 成果およびまとめ

最終的に曲げ輪を道具として漉いた円形の和紙を活用した照明（シェード）2点と、曲げ輪と円形の和紙を組み合わせた座椅子・座卓を成果物とした。残念ながら入選しなかったが、新潟IDSコンペティションにも出品、また出来上がった照明の試作は、長岡リックホール ホワイエを会場としたディナーイベント「SNOW FULL COURSE」でのテーブル装飾として試用させてもらった。

今後の展開として、提案した中から数点商品化する方法を探ることなど、次年度も継続していきたいというお話を小国和紙生産組合様からいただいている。

地域に残る貴重な文化遺産ともいえる、伝統的なものづくりをされている方々がコラボレーションすること、またそこに学生という若い風が入ることによる可能性を今回大いに感じる事ができた。スケジュール感覚の未熟さから試作の期間が圧迫されるなど、反省点は多々あるが、あたたかく受け入れてくれたことに感謝したい。

# 地域木材を活用した木製品の開発における森の循環や地域の林業振興にかかる研究

発注者：中越よつば森林組合

発注期間：平成 28 年 1 月 8 日～平成 28 年 3 月 20 日

プロジェクト主査：金澤 孝和（プロダクトデザイン学科 准教授）

プロジェクトメンバー：青山 祥廉、小林 智恵子、富澤 巧、田澤 雄基、渡邊 祥子、渡邊 有花子、柳沼 茜

## 1. プロジェクト概要

本件は、昨年度実施した「森の循環や地域の林業振興にかかる研究」の継続・具現化を期待されて受託したプロジェクトである。中越よつば森林組合が長岡市のもづくり未来支援補助金／技術・製品開発支援補助金に応募・採択されて、本学は調査を含めたデザイン面で協力をおこなっている。昨年度参加した学生を含めた学部3年生が参加している。

本学が関わった業務内容としては、昨年度提案した図書室にかかる地域木材を活用した木質化における試案の妥当性及び、実現可能性の検討をおこなうと同時に改善案を提示した。またそれに伴い、追加の試作をするための準備～検収、実現した場合の運用方法などの提案をおこなった。

## 2. 実施内容

昨年度、最終的には7アイデアを成果物として提案していた中から3アイデアに絞り、実現可能性の検討をおこなった。

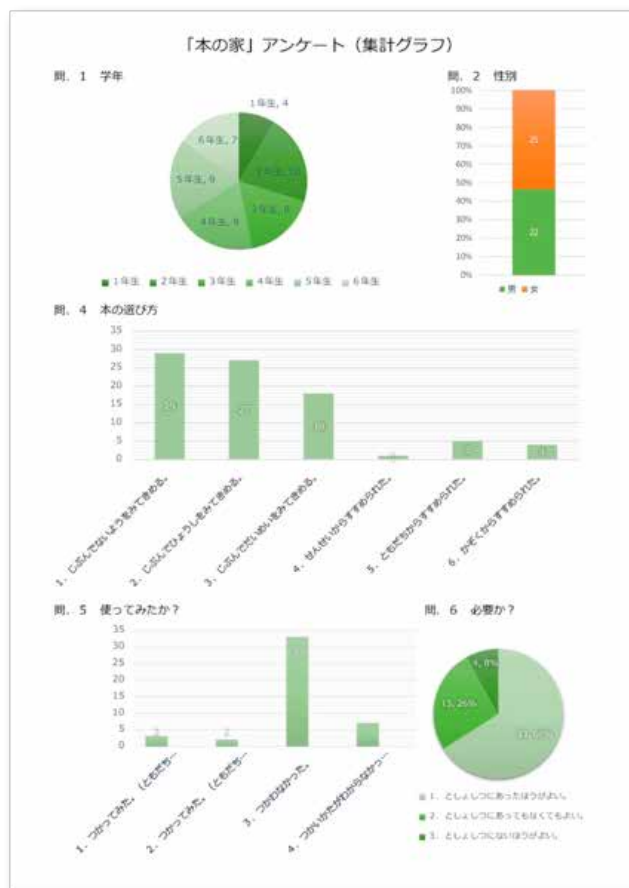
### ○読書トンネル

クライアントである中越よつば森林組合はじめ、多方面から支持を集めた「読書トンネル」の提案を実現させるべく調整をした。しかし実現までには、強度・安全性などを担保するためのハードルが高く、またそのためのコストが膨大に膨らむことがわかった。それらを回収する採算性も見込めないという判断があり、今回は実現化を見送ることとなった。



### ○本の屋根

昨年度、試作まで完成している「本の屋根」と「コンテナハウス」に関しては、長岡市教育委員会の協力のもと、実際に市内小学校に貸し出しをしてアンケート調査をしている。アンケートの集計及び分析結果をまとめたものを共有、分析をして方向性の検討をした。特に自由記載のコメント欄に使いつらさや、そもそもの使い方が理解されていないといった内容がみられ、その部分の改善を重点的におこなうこととした。



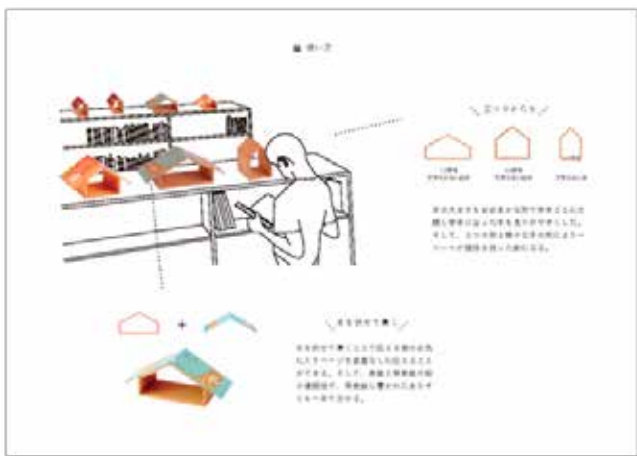


「本の架」アンケート  
 例）本校の図書室で使われているのは、何種類か  
 1. 本の架の設置場所が適切か  
 2. 本の架のデザインが適切か  
 3. 本の架のカラーが適切か  
 4. 本の架の材質が適切か  
 5. 本の架の大きさ（高さ・幅）が適切か  
 6. 本の架の重量が適切か  
 7. 本の架の設置方法が適切か  
 8. 本の架の耐久性が適切か  
 9. 本の架のメンテナンスが適切か  
 10. 本の架の取扱いが適切か

11. 本の架の設置場所が適切か  
 12. 本の架のデザインが適切か  
 13. 本の架のカラーが適切か  
 14. 本の架の材質が適切か  
 15. 本の架の大きさ（高さ・幅）が適切か  
 16. 本の架の重量が適切か  
 17. 本の架の設置方法が適切か  
 18. 本の架の耐久性が適切か  
 19. 本の架のメンテナンスが適切か  
 20. 本の架の取扱いが適切か

### ○コンテナハウス

アンケート調査と、実際に貸し出しをした小学校担当教諭のヒアリング内容の分析をして、提案自体は一定の評価を受け一方で、設置する専用台がないことに由来する問題点がいくつか浮かび上がってきた。屋根に推奨図書を置く仕様になっているが、低学年が使用すると設置場所が高いと表紙が見えず、低いと本が取り出しにくい。本が入ったコンテナは重く、設置しづらい。またコンテナハウスの設置位置が決めづらい。などの課題をクリアするべく、イトーキマルイ工業株式会社の協力を得て専用台の設計をおこなった。



コストダウンも検討事項となり、抜本的な意匠変更案も模索したが、最終的には意匠はそのままということで、本の屋根カタログとしてコンセプトや運用方法をビジュアル化した資料を作成し、PDFデータとして納品した。

# コンテナハウスアンケート (集計グラフ)

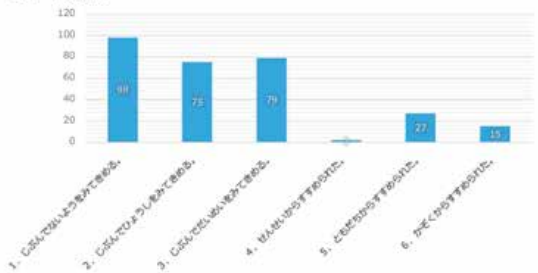
## 問. 1 学年



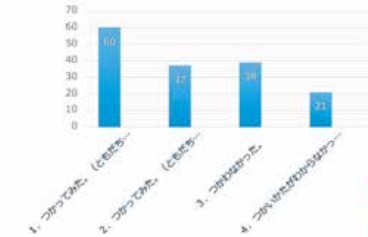
## 問. 2 性別



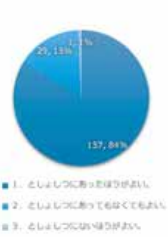
## 問. 4 本の選び方



## 問. 5 使ってみたか?



## 問. 6 必要か?



### 3. まとめ

昨年度から継続した研究で、試作を実際の現場に持ち込みアンケート・ヒアリングをした結果からモノとしての手応えを感じている。しかし具現化を目指すにあたり、コスト面や生産ロットなど課題は山積している。結論はすぐには見出せないが、今後も継続して研究を推進していきたいというお話をいただいている。





## マイクロ水力発電展示会 PR 映像制作

発注者：株式会社大原鉄工所

受託期間：平成 27 年 5 月 12 日～平成 27 年 5 月 26 日

プロジェクト主査：ヨールグ ビューラ（視覚デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：小川 由希子（撮影）、近藤 碧（撮影）、戸井田 杏（撮影）、脇川 諒（タイトルデザイン）、藤田 邑希乃（サウンド）、小西 あさみ（ナレーション）

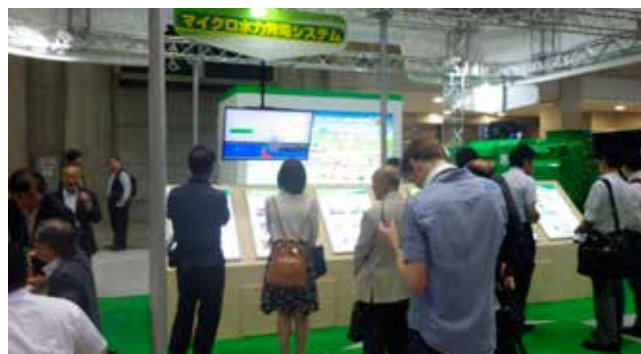
### 1. マイクロ水力発電プロジェクトの概要とそれに応じた PR 映像の前提

株式会社大原鉄工所が開発を進めているマイクロ水力発電設備の概要は以下の通り

- ・「長岡市新エネルギー開発支援補助金」を利用した地域産業のエネルギー分野の促進事業の一環である
- ・水路を利用した省エネルギー型の小水力 200KW 以下の小発電システムである
- ・平成 25 年度に本学が機構、外装、安全対策、環境対応へのデザイン提案など水車デザインの全般を手がけた
- ・平成 26 年度には、農業用水路に設置され実証実験が行われた
- ・この装置の 3 つの特徴として、(1) 落差のない水路でも水車の稼働が可能であり、(2) 満水時には水車を水路から引き上げ回避が可能、(3) 適正水位を保つための水量調整機能がある
- ・平成 26 年度に CG によるプロモーション映像を制作しており、今回の実写映像に挿入することを検討



4 月末、上記のプロジェクトを紹介すると共に商品を販売する為のプロモーション映像制作を発注者の大原鉄工所さんから依頼を受けた。3 分くらいの説明的な PR 映像を 5 月 26 日から東京ビッグサイトで開催される「2015 環境展」での大原鉄工所ブースに利用したいとの希望があったため、短い制作時間で完成させることが必要であった。



### 2. プロモーション映像の制作

主に環境展の来場客に向けて、大原鉄工所で用意されたナレーションに合わせた最終的に 3 分 22 秒の映像をデザインした。特に装置の 3 つの特徴を演出するためにカメラアングルとカメラワークを工夫した。アクセスしにくい所は、ドローンで撮影するのが最善と考えたが、まだ大学の撮影機材にドローンがなかったので、クレーン撮影で対応出来るよう努力した。基本の機能説明の内容もさることながら水の魅力と力を表現するために音声も丁寧に録音するよう企画した。

そして、ナレーションの台詞に合わせて、水車の羽のショットから後ろの風景の中を通る新幹線へのパンショットが上手くいく様に色々な工夫が必要であった。長岡造形大学で昨年度制作した解説アニメーションを 2 箇所を利用した。





### 3. 制作過程と作業役割

期間的に厳しいスケジュールで完成度の高い映像を納品するために大原鉄工所の協力が必要であり、シナリオとナレーション文章からロケ地の用意と撮影補助を含め、あるシーンでの演技まで大原鉄工所のPR担当の丸山さんに積極的に協力して頂いた。そして、学生の撮影チームとタイトルデザイン担当、オーディオ編集者などを短い期間に決め早々にそれぞれの制作作業に入れるようにした。これにより、クライアントの希望通り、展示開始までに納品することができた。

プロジェクトに参加してもらった学生には企業やクライアントとのやりとり、普段の作品制作スタイルと違った現実的なプロジェクトの過程と実際に専門の業界で使われている作品制作を経験させることができた。

**長岡市都市景観賞銘板制作業務・長岡市都市景観賞銘板制作追加業務**

発注者：長岡市

受託期間：平成 27 年 7 月 28 日～平成 27 年 12 月 28 日・平成 28 年 1 月 8 日～平成 28 年 3 月 22 日

プロジェクト主査：長谷川 克義（美術・工芸学科 准教授）

プロジェクトメンバー：三井田 竜治、伊東 孝浩、近江 美果、長谷川 俊介、齋藤 晃央

**1. 受託概要**

本件は、長岡市により平成 15 年度から創設されている「都市景観賞」において、受賞者（団体）に贈呈される銘板および楯を鋳物で制作（複製）するものである。

今年度は平成 27 年 7 月 1 日から 9 月 30 日まで募集が行われ、658 件の応募の中から、【建築物部門】は稲田育彦邸、越銘醸株式会社、和島トゥール・モンド 100 年の時をこえて、【まちなみ部門】は平和の森公園、薬師の陵、リプチの森が受賞した。当初予定業務は銘板 4 枚、盾 2 枚の鋳物制作業務であったが、今年度は銘板設置箇所が増え、追加業務として銘板 1 枚を制作した。



銘板の蠟原型制作状況。縁部分に厚みを付けている。

**2. 制作工程および日程****(1) 蠟原型・鋳型制作・鋳造・仕上（10月中旬～12月下旬）**

蠟原型を制作し鋳造経路を取り付け、鋳型を作成する。鋳造は盾 2 枚を 11 月 26 日、銘板 4 枚を 12 月 10 日に行う。順次、仕上げを行った。

銘板の追加制作業務依頼が入る。

**(2) 着色及び受け渡し（1 月）**

緑青を生成した後、顔料で塗色を施す。

長岡市へ 1 月 22 日に受け渡す。

**(3) 追加分蠟原型・鋳型制作・鋳造（1 月中旬～2 月下旬）**

同様作業を行い、銘板 1 枚を 2 月 29 日に鋳造する。

**(4) 仕上・着色及び受け渡し（3 月）**

同様作業を行い、3 月 11 日に長岡市へ受け渡す。



鋳型制作状況。湯口部分を埋没剤で盛り付けている。

**3. まとめ**

寸法：銘板 H315 × W315 × D35mm 4+1=5 枚

楯 H175 × W175 × D9mm 2 枚

材質：ブロンズ〈BC-6〉

今回の業務は、市内で蠟型による美術鋳造を行える場所が本学であるということ、また、今までの同様のものを制作するということが、長岡市からの依頼を受けた。よって、鋳物に関わる部分だけの制作となっている。また、その制作詳細についてはデザイン研究開発センター報告書 2009 年度版を参照されたい。

最後になるが、鋳造及び仕上げ作業を教務補助職員の三井田 竜治、鋳金領域を研究する伊東 孝浩、近江 美果、長谷川 俊介、齋藤 晃央に協力を仰いだ。感謝する次第である。



銘板の鋳造状況。地金の鋳造温度は約 1100°C である。



受託事業名：

## 北越銀行支店デザインに関するアドバイス業務

発注者：株式会社北越銀行

受託期間：平成 27 年 5 月 13 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：渡邊 誠介（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：森 望（建築・環境デザイン学科 教授）、川口 とし子（建築・環境デザイン学科 教授）

### 1. プロジェクト概要

本学と包括連携協定を結んでいる北越銀行より、出来島支店の新設に関して相談を受けた。本学は 1 級建築士の教員を擁しているものの、1 級建築士事務所としての契約はできない。そのため、北越銀行と本プロジェクトに関し設計・監理の契約を結んだ株式会社 S.U 建築設計に対して、プロジェクトの進行に従い、適宜教員がデザインのアドバイスを行った。

### 2. 実施状況および成果

- 3 月 契約前の意見交換  
(北越銀行・長岡造形大学・S.U 建築設計)
- 4 月 建物配置についての意見交換  
(長岡造形大学・S.U 建築設計)
- 5 月 北越銀行内部にて、西側建物配置案に決定
- 6 月 外観イメージについて意見交換  
(長岡造形大学・S.U 建築設計)  
基本設計決定
- 3 月 内装デザインイメージについて意見交換  
(長岡造形大学・S.U 建築設計)



外観イメージ



内観イメージ

資料提供：  
株式会社 S.U 建築設計

# 平成 27 年歴史的建造物詳細調査業務

発注者：三条市

受託期間：平成 27 年 7 月 13 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 西澤 哉子

## 1. はじめに

三条市から、平成 27 年度歴史的建造物詳細調査業務として以下の依頼が長岡造形大学にあった。

- 1) 中心市街地の歴史的建造物について全体調査を実施し、その価値を明らかにし、今後の保存・活用のための基礎資料を整備する。
- 2) 歴史的建造物として価値を明らかにし、文化財保護の基礎資料を整備する。
- 3) 過去に調査した歴史的建造物について、調査報告の編集・加筆を行い、印刷製本を行う。

本報告では、上記の各項目について各業務の概要を報告するものである。

## 2. 中心市街地の歴史的建造物について全体調査

### 2-1 調査の概要

この調査は、平成 26 (2014) 年度から継続するもので、三条市中心市街地において、調査時点における全建物について記録するものである。

### 2-2 調査の方法

#### ・調査期間

平成 27 (2015) 年 7 月 21 日～8 月 10 日

#### ・調査範囲

三条市中心市街地の範囲を、北は県道 121 号線（東三条停車場線）とし、南を JR 弥彦線、西は旭町 1 丁目と神明町の一部、東を東三条 1 丁目とした。調査町名は、旭町 1 丁目、横町 1 丁目、仲之町、林町 1 丁目、一ノ門 1 丁目、田島 1 丁目、東三条 1 丁目となる。

#### ・調査内容

調査は公道より目視確認可能な範囲において調査票を記入し、外観の写真撮影を行った。

#### ・調査体制

現地調査及び台帳の整理は長岡造形大学の平山研究室が実施し、現地調査補助として三条市市民部生涯学習課が担当した。

#### ・調査票

使用地図として、平成 26 (2014) 年 7 月発行、(株)刊広社メーサイズ普通版三条市を用いた。

通し番号は 50 音順とし、それ以後は番地順、番号順とした。

名称、所在地は住宅地図に記載される名称、住所を原則とした。

以下、建築年代、年代根拠、構造、階数、屋根形式、妻入／平入、屋根葺材、軒形式、軒高、天窓、格子戸、明かり窓、用途、改造度、妻面の扱首、棟札・幣串、土間の位置、その他の建築、の項目について調査を実施した。

#### ・写真撮影

写真撮影は公道上より、建物全体が望見できる角度から行い、必要に応じて細部意匠、建築資料などの撮影を実施した。

## 2-3 調査の結果

平成 27 年度三条市中心市街地歴史的建造物調査により調査範囲においては 1017 棟の建物などを確認することができた。

平成27(2015)年度 三条市中心市街地歴史的建造物調査票		通し番号 <input type="text"/>	
名称	<input type="text"/>	住宅地図	<input type="checkbox"/> - <input type="checkbox"/> - <input type="checkbox"/>
所在地	<input type="text"/>	調査番号	<input type="text"/>
備考	<input type="text"/>		
建築年代	<input type="text"/>	明かり窓	<input type="text"/>
年代根拠	<input type="text"/>	用途	<input type="text"/>
構造	<input type="text"/>	改造度	<input type="text"/>
階数	<input type="text"/>	妻面の扱首	<input type="text"/>
屋根形式	<input type="text"/>	棟札・幣串	<input type="text"/>
妻入/平入	<input type="text"/>	土間の位置	<input type="text"/>
屋根葺材	<input type="text"/>	その他の建物	<input type="text"/>
軒形式	<input type="text"/>		
軒高	<input type="text"/>		
天窓	<input type="text"/>		
格子戸	<input type="text"/>		
写真	位置図		
<input type="text"/>		<input type="text"/>	
調査日	<input type="text"/>	調査者	<input type="text"/>

図 1 調査票の一部

### 3. 歴史的建造物の調査 小出医院診療棟の調査

中心市街地における歴史的建造物の調査として、本年度は三条市本町4丁目に位置する、小出医院診療棟の建築調査を実施した。

#### 3-1 位置と概要

小出医院診療棟は、北三条駅から本町通りに向かう県道8号線に面して建ち、地域のランドマークともなっている。

建物は木造下見板張で洋風の外観を持つ2階建てで色鮮やかな黄緑色のペンキ塗となる。県道に面し東面する建物は、屋根全体はコの字形となり、中央が玄関で2階にバルコニーを設ける。南側は切妻造、北側は寄棟造とする変化に富んだ表情を見せる。

#### 3-2 形式、規模

小出家は現在、中心市街地を縦断する大通りに面して南面し北西角地に位置し、この内、診療棟は敷地の北側に位

置する。なお、東側の敷地は中古の時期における獲得によるもので、明治時代初期は角地から2軒目が小出家の敷地であった。

診療棟の規模は間口11間、奥行5間となるもので、木造2階建てで椽瓦葺となる。

#### 3-3 平面と部屋の構成

小出医院診療棟は1階を診察室など、2階を病室とするもので、1、2階とも中廊下の構成となる。

#### 3-4 建築年代

小出医院診療棟の建築年代は、『日本近代建築綜覧』によれば、大正時代中期と記され、高村某による建築とされる。なお、診療棟玄関には大正8(1919)年の刻銘を持つ看板が掲げられることから、これがおよその建築年代を示すものとも考えることができる。



小出医院診療棟 南西より



小出医院看板

## 4. 調査報告書の刊行

### 4-1 概要

三条市から長岡造形大学には平成 21 (2009) 年から継続的に歴史的建造物の調査依頼があり、これまでも調査成果を平成 23 (2011) 年に『三条市中心市街地歴史的建造物調査報告書』、平成 24 (2012) 年に『国登録有形文化財三条市水道局大崎浄水場建造物詳細調査報告書』などをまとめている。

今回は、平成 22 (2010) 年度三条市歴史的建造物総合調査、平成 23 (2011) 年度三条市中心市街地歴史的建造物調査及び三条市歴史的建造物総合調査、平成 25 (2013) 年度三条市歴史的建造物総合調査において、長岡造形大学などが三条市から調査委託を受けた物件について、三条市歴史的建造物調査の報告書として刊行した。

### 4-2 調査の目的

一連の調査は、中心市街地に所在する歴史的建造物及び保

存・活用が必要とされる建造物について、基礎資料を整備することとした。

### 4-3 調査の方法

三条市における歴史的建造物において、詳細な実測調査を行い、平面図、断面図、立面図を作成した。また、聞き取りなどによる調書も作成し建築年代の考察、復原考察を実施した。加えて建物の外観、内部において写真撮影を行った。

### 4-4 報告書の活用

報告書の活用を図るため、本報告書などを参考文献とした見学会を三条市民を対象として年度内に実施した。見学地は三条市歴史民俗産業資料館、旧新光屋米店・みんなのまちの交流拠点「みんくる」、嵐溪荘、升箕社及び升箕古宮であった。





# 三条市歴史的建造物調査 報告書 I 目次

巻頭写真

例言

目次

1. 調査概要		20
1-1	調査の目的	
1-2	調査の概要	
1-3	調査の方法	
2. 各物件解説		21
2-1	升箕社	三条市下大浦 22
2-2	升箕社古宮	三条市下大浦 30
2-3	嵐溪荘緑風館	三条市長野 38
2-4	遠人村舎	三条市庭月 52
2-5	旧新光屋米店 / みんなのまちの交流拠点「みんくる」	三条市仲之町 62
2-6	燕屋旅館	三条市本町四丁目 74
2-7	山本電器倉庫 / 旧新潟県計量検定所	三条支所 86
2-8	川俣家住宅長屋門	三条市月岡 96
参考文献		105

## 平成 27 年鍛冶ほか工場歴史的建造物調査業務

発注者：三条市

受託期間：平成 27 年 7 月 13 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 西澤 哉子

### 1. はじめに

三条市から、長岡造形大学に対して、三条市公有の歴史を物語る「工場」について調査し、文化遺産を記録・保存し、活用につなげることを目的とする調査依頼があった。以下、調査の概要を報告する。

### 2. 調査の概要

#### ・調査方法

三条市中心市街地に所在する鍛冶ほか工場において、聞き取り調査作成、外観及び内部において写真撮影を行い、調査票を作成した。

#### ・調査物件

三条鍛冶道場の協力を得て、三条市内における特徴的で歴史的な工場建築を持つ 5 業者の紹介を受け、調査に臨んだ。

### 3. 調査の内容

#### 3-1 宗利製作所 三条市荒町 1

宗利製作所は、明治 40 (1907) 年に三条市の八幡小路で 2 代前が創業したとする。代々、鎌を中心とする刃物の製造及び卸を手掛けたと云う。現在の建物は昭和 40 (1965) 年の建築とされる木造平屋建の切妻平入、セメント瓦葺の形式である。軒高が高く、小屋組はキングポストラスとするもので、屋根中央に“トウヤ”と呼ぶ気抜窓を設ける。また、建物周囲の窓下にも押し出し窓を各所に設ける特徴的な構成となる。

工場内には火床とスプリングハンマーが複数箇所据えられ、動力の伝達にはかつて用いたプーリーも現存する。

#### 3-2 増田切出工場 三条市東裏館 1

増田切出工場では、先端が斜めとなる片刃の切出や、刃物の製造を行っている。



図 1 宗利製作所

昭和 18 (1943) 年に先代がこの地で創業した。本来は町家であった建物を譲り受け、当初はその一画を工場としたとする。

### 3-3 田齋のみ製作所 三条市塚野目 4

田齋のみ製作所は昭和 52 (1977) 年に独立し、大工道具の制作を行っている。

建物は同年の建造で、木造一部 2 階建セメント瓦葺切妻造妻入の形式となる。火炉が 2 箇所あり、エアハンマーを用いる。作業は低い位置で行うため、円形の穴が掘られ、作業はそこで立ち姿勢で行うこととなる。研ぎは手作業で行うという。

### 3-4 池田ノミ製作所 三条市荒町 1

池田ノミ製作所は 3 代前が 100 年程前に創業したとされ、大工道具、作業工具の製造を専門としている。

主屋と作業場が別棟であり、いずれも大正時代頃の様相を示すものであった。作業場は木造平屋建葺瓦葺、寄棟造平入の形式となる。建物の立ちが高く、小屋組は和小屋組とする。内部にはプーリーを受ける台座が建物とは別に組まれる。火床が複数箇所あり、スプリングハンマーを用いる。様々な形の道具を扱うためやはり研ぎは手作業で行うとする。

### 3-5 平木挟製作所 三条市土場 5

平木場曩製作所は昭和 54 (1979) 年の創業で、刃物製造を行い、特に木挟みの生産を中心に行う。

建物も昭和 54 (1979) 年創業と同時期のものである。鉄骨造の平屋建金属板葺で、切妻造妻入の形式となる。工場内には火床とスプリングハンマー、金床が一揃いで数ヶ所配されており、入口側の一画を区切り“カラクリ”と呼ぶ組み立て場とする。



図 2 平木挟製作所





图 3 増田切出工場







図 4 田斎のみ製作所



図 5 池田ノミ製作所

## 妻入り家屋整備・活用計画策定支援業務

発注者：出雲崎町

受託期間：平成27年7月27日～平成28年3月18日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 清水 恵一、西澤 哉子、早川 知子

### 1. はじめに

新潟県出雲崎町から、同町尼瀬に所在する津山家住宅店舗兼主屋の調査活用に関する依頼が長岡造形大学にあった。

業務の目的は、「都市間交流をテーマとして出雲崎特有の妻入りの街並みを代表する建築物を交流の拠点や地域活性化の施設として利用できるような活用計画と併せて、町の歴史・文化・芸術の再発見と情報発信を含めた総合的な都市交流プランを提案するもの」とされた。

対象地域は「出雲崎町の海岸地域を中心に、必要に応じて町内全体」とした。

業務内容は以下に記す6点であった。

- 1) 出雲崎町都市交流計画策定支援
- 2) 海岸地区街並活性化計画策定
- 3) 旧津又邸整備・活用計画策定
- 4) 旧津又邸耐震補強調査
- 5) 旧津又邸改修工事実施設計
- 6) 町民と大学生とのワークショップ

本報告では、調査結果に基づいて委託業務の内、中心的な役割を果たす旧津又邸建物の建築年代、変遷などについて報告を行う。

### 2. 津山家住宅の概要

#### ・位置と概要

津山家は、出雲崎町の日本海に沿って進む旧北国街道に南面して位置する町家で、所在地は出雲崎町尼瀬162となる。屋号は“津又”であるが、現在、地元では“津又邸”として一般には呼称されている。

#### ・沿革

津山家はもともとこの地で茶業を営んでいたが、後に出雲崎町に寄贈されている。

### 3. 津山家住宅の概要

#### ・配置と形式、規模

津山家住宅は、出雲崎漁港のすぐ裏手に位置し、旧北国街道に南面して位置する。敷地の間口は3間半、奥行は12間半と細長いものとなっている。この敷地の街道沿いに店舗兼主屋が配される。なお、かつて敷地背面は日本海まで続いていたという。

店舗兼主屋の形式は、木造切妻造妻入棧瓦葺で、出雲崎の町並みを構成する妻入町家の1つとなっている。

#### ・平面と部屋の構成

建物は、旧街道に面して正面側に幅1間弱の下屋を配し、これが入口となる。現状では南面と東面にサッシによるガラス戸が立てられる。ここを入ると下屋は前土間の形式の「雁木」で、建物下手東側に設けられた幅1間程の「通土間」が背面まで続く。建物平面はこの「通土間」に沿って4室を配する一列4室型の構成となる。

1番南側に配されるのが「店」で、8帖半程の広さとなり、西側の壁面に沿って押入が配される。現状では畳は撤去され、天井は2階床組を表しとする根太天井で、土間堺はいずれもガラス戸を立てる。但し、前土間境の西端間の一間にのみ揚戸が残る。

2室目は10帖の「茶の間」で、「通土間」に面して半間幅の上がり縁を設ける。また、部屋の西面では2間半ある間口を3等分して、南側から棚、床の間、仏壇とする。天井は2階までの吹き抜けとなり高く、棹縁天井とする。「店」との部屋境は板戸、「通土間」との境は2段の障子戸とする。

3室目は8帖の「中の間」となる。この部屋も「茶の間」前から続く半間幅の上がり縁が「通土間」に面して配される。西面は押入とするが、ここに2階へ上る箱階段が配される。根太天井で、「茶の間」との部屋境は板戸、「通土間」境は障子戸とする。

4室目は8帖の「寝間」である。西側に床の間、押入を配する。南根太天井で「中の間」境は襖、「通土間」境は土壁、背面の廊下境はガラス戸とする。なお、「寝間」背面に半間幅の廊下を配し、北西側に「便所」を置く。また、廊下裏は「中庭」で、この背面に「通土間」からおれて幅1間弱の「土間」が配される。

「雁木」は敷地西側に半間程延び、「店」裏側に回り込む「物入」に接続する。

「通土間」と「雁木」境には大戸があり、これを開けると東面の側壁に収納される納まりとなる。「店」前部分は根太天井で、東側は土壁とする。「店」-「茶の間」境は格子戸で区切られる。南側に寄って「店」上の「表二階」に通じる階段を配する。この部分は、「茶の間」と同様、吹き抜けで、小屋裏表しとする。東側は障子戸で区切り棚とし、先端にアルミサッシを立てる。「茶の間」-「中の間」境は片引戸で、ここも吹き抜けとなる。東側に寄って「台所」が設けられる。小屋組は表しで、東壁面の建具はアルミサッシとなる。「寝間」前の「通土間」には「脱衣室」があり、

背面に伸びて「浴室」を置く。なお、「中庭」前の部分に開き戸を配しており、背面の「土間」と区切られることとなる。これらの部分ではいずれも天井部分は垂木表しの構成となる。

二階は2箇所に分れる。「店」上が12帖の「表二階」となる。西側に床の間と押入を配し、正面側に腰高の出窓を配する。棹縁天井とする。

「中の間」上が6帖の「裏の小間」となる。棹縁天井で、西側に押入、東側の北寄りには「通土間」上の吹き抜けに向けての高窓を配し、障子戸とする。

「裏の小間」に接続した背面は10帖の「裏二階」となる。西側に棚、床の間、押入を配する。棹縁天井で、「裏の小間」境は障子戸、背面の廊下境も障子戸とする。

なお、「裏の小間」背面には幅1/3間程の廊下を配し、北側に硝子戸を立てる。

#### ・構造

小屋組は部屋境では折置組、部屋中には京呂組で梁を架け渡し、この間に筋を変え、各2通り敷桁を配する。小屋組は和小屋組で、3間半を6等分して、棟束及び母屋束を配する。

## 4. 津山家住宅の建築年代及び復原考察

### ・建設年代

建築調査から、建物の建築年代を示す1次資料を見出すことはできなかった。但し、この建物は軒高さが低く、正面螻羽の出も比較的大きいことから、明治時代に遡る建築と判断された。また、建物では垂木、雁木垂木掛を止める釘に和釘が確認されたが、2階根太掛など、当初と考えられる軸部各所において洋釘も確認された。なお、二階「裏の小間」押入襖下張からは明治16(1883)年3月24日号の新聞を見出すことができた。

以上の点を考慮すると、この建物では当初の段階で和釘と洋釘を併用し、明治16(1883)年3月24日の新聞紙が見出されたことから、明治時代中期の建築と見ることができると考えられる。

### ・復原考察

建物には多数の痕跡を確認することができた。

「店」の正面側では西端間に3枚の揚戸が残るが、残り2間では柱内側面に揚戸溝が埋木されるものの、柱間中央では揚戸を降ろす際に立てられた柱穴が、敷居と差物に確認された。加えて東端間の「通土間」大戸部分でも地覆の

痕跡があり、西側柱東面に揚戸溝の埋木が確認された。これらの痕跡を生かすと「店」東側の土間もかつては床上となるが、これらを示す痕跡は東側の側柱には確認できなかった。

大黒柱は現在下手側へ真ずれして納まっているが、内法高さを見ると正面側からの差物は当初、柱心に納まる痕跡を有し、足元では正面、背面とも埋木があり、土間側で地覆を受ける埋木が確認されたものの、側柱に対応する痕跡は見られなかった。以上の点を合理的に解釈すると、この建物では「店」及び下手の土間は当初床上で、正面側は揚戸の形式であったものの、側柱はいずれも交換を受けたこととなる。

「茶の間」は西側部屋角の柱内側には貫の仕口2箇所に埋木が施されていた。また、土間境の建具装置は最近のもので、天井は梁組下端に電灯ソケットがあり、小屋裏化粧板張となることから中古と考えられ、当初は梁組表しの形式と判断できた。

「中の間」は西側の天井根太2本の西側のみに根太柄が確認されたが対応するものではなかった。また、「茶の間」境の差物では、「中の間」側に西側から半間の箇所に内法長押を受けた痕跡が確認されたが、これも対応するものではなかった。

「表二階」は内部の仕様が全般的に新しい。正面側では窓部分で梁を切断しており、当初の窓高さはもう少し低かったと見ることができると考えられる。また、北側の現状の入口は柱間に貫が確認された。

以上の調査から判断すると、建物是对応しない痕跡が数多く見受けられた。特に大黒柱周囲の痕跡は大規模な工事を伴うものが多く、中古古材の利用も多数確認されたことから、建物自体を一度解体した移築の可能性が高いものと考えられる。

## 5. さいごに

出雲崎町の津山家住宅店舗兼主屋の調査から明らかとなるのは以下の点である。

- 1) 旧津山家住宅店舗兼主屋では、垂木に和釘の使用が認められるものの、軸部各所において洋釘も確認されたことから、明治時代中期における建築を考えるのが妥当である。
- 2) 「店」は正面側を現状の土間部分も含め揚戸の形式に復原することができる。

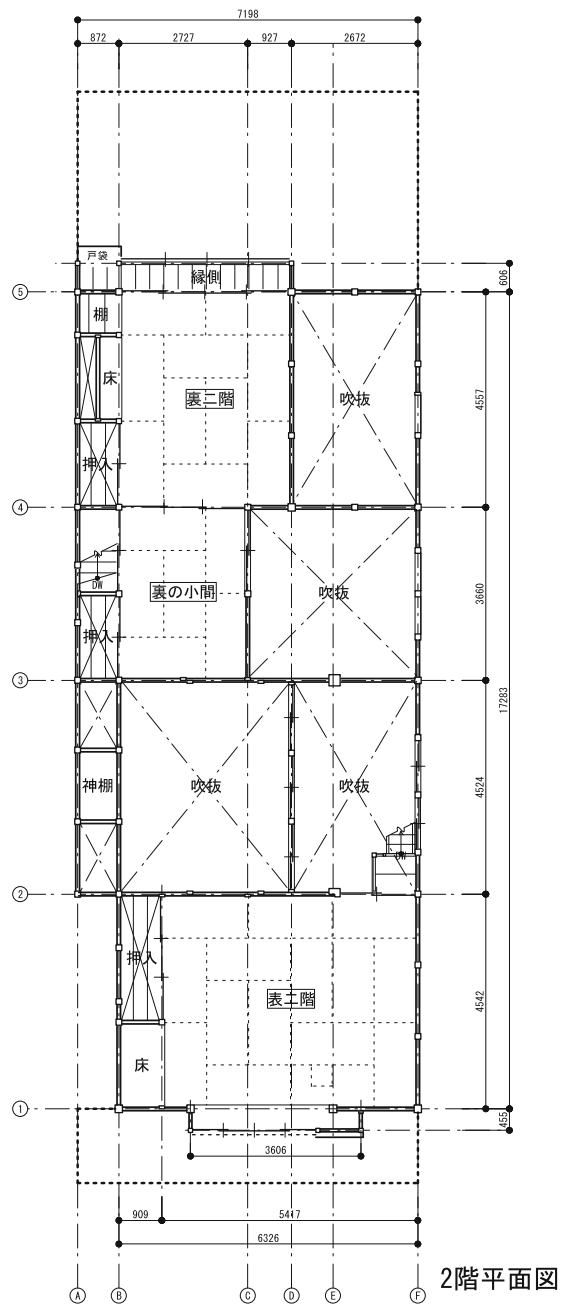
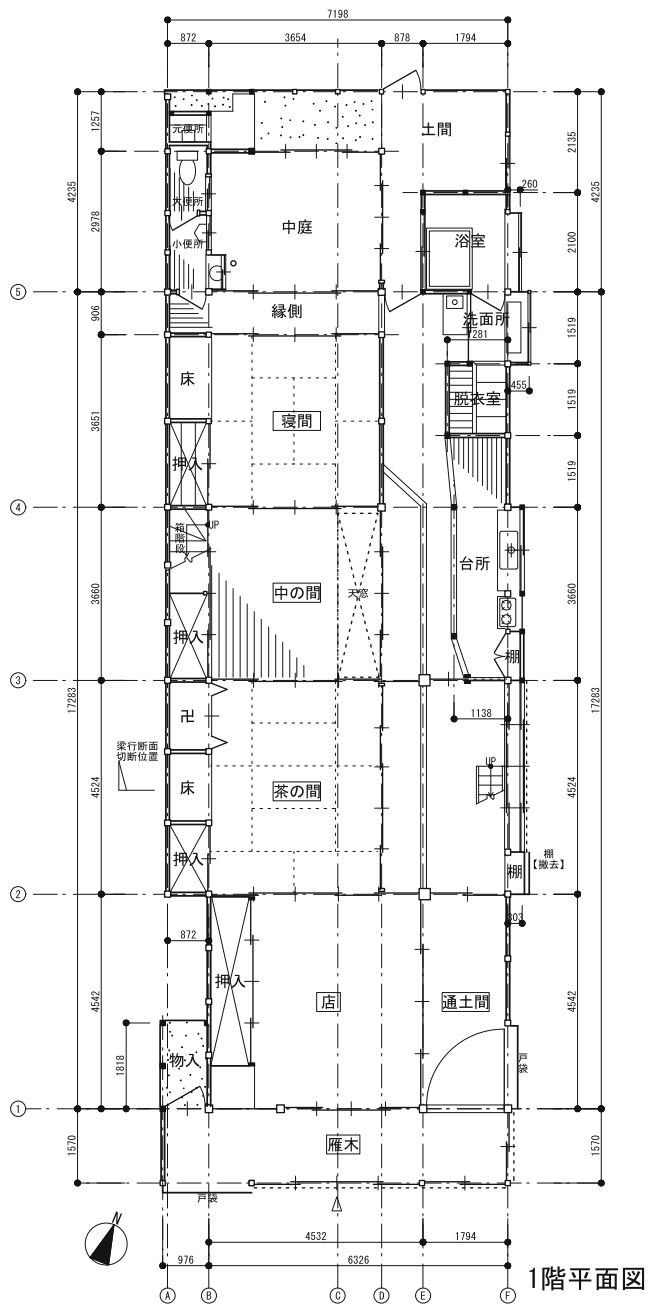


図 1 旧津又邸 平面図





写真 1 旧津又邸外観 南東より



写真 2 旧津又邸通土間 北より



写真 3 旧津又邸茶の間 南東より



写真 4 旧津又邸 2 階表二階 東より

## 文化財登録に係る建造物調査業務

発注者：出雲崎町

受託期間：平成 27 年 9 月 18 日～平成 27 年 10 月 30 日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 西澤 哉子

### 1. はじめに

出雲崎町から同町米田<sup>こめた</sup>に所在する良寛記念館について、国登録有形文化財へ向けての建造物調査の委託が長岡造形大学へあり、建築などの調査を平成 27（2015）年 9 月に実施した。

建築調査においては建物の配置図、平面図の実測、写真撮影など実施して、建物の平面のあり方とともに、建物を構成する各部の特色を明らかにすることを目的とした。また、良寛記念館に所蔵される計画段階などにおける一連の図面類の検討も行い、建物完成に至る過程も考察を行った。本稿においてはその成果の一部について報告するものである。

### 2. 良寛記念館の概要

良寛記念館は出雲崎町の日本海を望む高台にあり、所在地は出雲崎町米田 1 番地となる。

敷地は、良寛の生家となる橘屋山本家の墓地に程近く、晴れた日には遠く佐渡を望むこともできる<sup>こがんがおか</sup>虎岸ヶ丘に位置する。

施設は、宝暦 7（1757）年、出雲崎の地に生まれた良寛の生誕 200 年の記念事業として計画がなされ、昭和 40（1965）年に開館したものである。施設は資料を展示する展示棟（記念館）と管理棟（休憩室）を回廊でつなぐ。

### 3. 良寛記念館建設の沿革

良寛記念館の沿革については、同館がまとめた「良寛記念館の歩み」とする資料があり、これが参考になる。

以下、良寛記念館建設の経緯について地域紙である『柏新時報』などに沿って考察を加えていきたい。

#### 3-1 良寛記念館の建設決定まで

出雲崎町における良寛会の結成は昭和 28（1953）年 2 月 6 日に発会式があり、会では同年 5 月に早速、良寛記念館の計画を進めた。但し、これは現良寛記念館の前身で、旧出雲崎郵便局庁舎を町立図書館などとして転用するのに際して、その一部を良寛記念室としたものである。

記念室は地元の良寛研究者である佐藤吉太郎（佐藤耐雪）から寄贈された良寛遺墨、関連資料が中心となるもので、町立として昭和 28（1953）年 7 月 1 日に開館した。施設は建物の 2 階の一角を占めるもので、広さ 10 坪、工費 50 万円であった。

一方、前後して良寛記念館建設の気運が高まり、募金活動が開始され、財団法人を申請し良寛記念館の建設を図る運動が始まり、募金の要項の趣意書が昭和 30（1955）年 6 月にはできた。財団法人の認可は翌昭和 31（1956）年 3 月 28 日付で、4 月 28 日の第 1 回理事会では翌年の良寛生誕 200 年記念事業として、記念館の建設整備のため 1,500 万円の募金活動を行うことが話し合われた。

記念事業は昭和 32（1957）年 10 月 23 日から 27 日まで実施されたが、これに先立ち既に 9 月の段階において記念館建設候補地の選定のため、実地踏査と協議が行われている。候補として町中心部 2ヶ所、役場付近 2ヶ所、桜公園付近、帝石出雲崎支所跡付近などが挙げられるが、この段階では桜公園付近と帝石出雲崎支所跡付近の 2ヶ所が有力候補とされた。候補地選びは難航し、翌昭和 33（1958）年 6 月には尼瀬浜田付近、石油公園付近、展望坂付近の 3ヶ所とされた。一方、記念館の設計者として谷口 吉郎への依頼は早くも昭和 33（1958）年 7 月 13 日付でなされ、これを受けて谷口は 12 月 7 日に<sup>こがんがおか</sup>出雲崎町を訪れ、石油公園付近 500 坪、出雲崎生家工場裏付近 600 坪、新道展望坂付近 400 坪、熊木八十八郎氏邸付近 300 坪を実踏し、良寛ゆかりの地に絞るべきとの意見を述べた。その答申を受けて財団は、良寛生家である橘家の墓地もある虎岸ヶ丘付近を予定地として昭和 34（1959）年 1 月には絞り込み、4 月 6 日の理事会において正式決定を行った。この段階で、来春の完成を目指し、記念館は RC 造の 30 坪、付属施設（休憩施設）は 60 坪とされた。

#### 3-2 建設決定から記念館（現展示棟）の竣工まで

記念館建設決定後、谷口が出雲崎を訪れたのは昭和 34（1959）年 7 月 14 日のことで、ここで谷口は関係者らと話し合いの上、記念館は RC 造の 90㎡、工事費は 600 万円とした。そして、この年 12 月には接続道路工事の入札が行われ、翌年 3 月には完成間近とされている。

そして、谷口からの設計案は昭和 35（1960）年 5 月 22 日に届き、25 日に公表された。これによれば建物は記念館と休憩室を廊下でつなぐもので、記念館が RC 造銅板葺平屋建 101㎡、廊下 44㎡、休憩室は待合所、受付、管理室、来賓応接室、宿直室、予備室、便所からなる木造瓦葺平屋の 138㎡、この他に記念会館（展望台付き）231㎡で、総工費 1,000 万円、同年 11 月 3 日に開館式を行う予定とし、模型写真も発表されている。

但し、設計変更があり、実施設計は8月13日に示され、清水建設の施工で10月に着工し、明春竣功とされた。

起工式は11月8日、現場において県知事、谷口など関係者数十人が出席して開かれた。記念館の工事は順調に進み、昭和36(1961)年3月21日には基礎工事が終わり、躯体の型枠が外された。4月4日には谷口の来町もあり、2期工事の打合もなされ、月末には理事長らが東京へ谷口を訪ね、再度の打合せを行った。そして、記念館の竣功は昭和36(1961)5月、請負金は693万円であった。

### 3-3 良寛記念館記念館の竣功から開館まで

ところで、記念館の竣功した昭和36(1961)年の夏、出雲崎は立て続けに、8.5集中豪雨と第二室戸台風という2つの災害に見舞われて町内は甚大な被害を受け、募金活動は中断し、施設の建設は一時頓挫した。2期工事の回廊、管理棟の工事は昭和39(1964)年からとなり、この工事は柏崎市の植木組と契約が同年2月には締結され、3月に着工した。工事は5月の段階でコンクリート打が終了し、10月8日には竣功引渡があり、9、10日の両日には一般への参観が行われた。工事費は800万円とする。

そして、開館式は翌昭和40(1965)年5月15日に来賓300名余を迎え実施された。

以後、数次の改修工事があり現在に至るが、記念館は平成24(2012)年12月、町に譲渡され、平成25(2013)年1月からは町の運営とされている。

## 4. 良寛記念館の立地

良寛記念館の立地は、国道352号旧三国街道から分岐した町道を300m程進んだ場所となる。敷地は虎岸ガ丘とかつて呼ばれ、良寛ゆかりの山本家(橘屋)墓地があり、眼下に日本海が広がり佐渡を望むことができる「にいがた景勝百選一位当選の地」でもある。東北東面する敷地は丘陵の一角を占め、入口から記念館までは奥に向かうに程高くなっている。敷地東面は駐車場となり、垣根を設けて門として木戸を開く。建物までの間は庭園とされ、川の流れを模して蛇行する参道は、良寛の庵であった五合庵を模した耐雪庵や、新潟市中野邸から移した庭石などの間を徐々に登り、記念館へ導く構成となる。

## 5. 良寛記念館建物の概要

建物は管理棟、回廊、展示棟からなる。

展示棟は東面するRC造の切妻造妻入平屋の形式で、規模は梁行5.00m、桁行27.00mである。建物は敷地東側の門から庭内部の参道を西側に進んだ場所となる。建物東面北側に寄って階段が配されポーチに導かれる。玄関を入るとガラス窓越しの正面に展示館を臨む。玄館の南側に客溜まりがあり、南東角の一角に受付を配する。来館者はここから西側に開かれた出入口から土庇に出て、真っ直ぐ西にのびる回廊を進んで展示室へ向かうことになる。一方、受付裏は事務室となり背面に通用口を持つ。なお、事務室南側には休憩室、西側には便所、収蔵庫が配される。

回廊は、南北に延びる鉄筋RC造の片流れの形式で、規模は幅1.75m、長さは23.4mである。回廊は管理棟南側の土庇と展示棟入口との間に配される。管理棟側に階段を設け、北側は壁、南側は金属製の手摺を配し、中庭を見渡すことができる。展示棟側ではやや登りの勾配が付き、展示棟前に設けられた風除室となる。

展示棟は東面するRC造の切妻造妻入平屋の形式で、規模は梁行5.00m、桁行27.00mの規模となる。建物は管理棟とは回廊にて結ばれ、東側妻面に設けられた入口から館内へ入る。棟内は1室で、入ると北側すぐの場所に新潟県指定文化財となっている良寛堂の1/10模型が配される。内部は壁際に展示ケースが設けられ、良寛の壮年期から晩期にかけての遺墨を中心として、良寛の肖像画、良寛ゆかりの説話を題材とした絵画、関連著書が展示される。なお、建物の東、北、西側の一部に鉄筋コンクリート製の濡れ縁が長く伸びた軒下に巡らされ、景勝を楽しむことができる。当初の展示は入口際に応接机及び椅子を配し、中程にショウケース3基を梁行に配し、背面壁面に背の高いケースを造り付けとするものであった。

## 6. さいごに

このように、良寛記念館はいずれも谷口吉郎の設計に関わるもので、管理棟と回廊は昭和39(1964)年10月、展示室は昭和36(1961)年7月に竣功と明らかで、いずれも建物は周囲の景観と一体となり良好な環境を形成し貴重である。この物件は登録文化財登録基準(平成8年文部省告示第152号)の「一、国土の歴史的景観に寄与しているもの」に該当すると考えることができた。

なお、調査後に書類を提出し、良寛記念館は平成28(2016)年3月11日付で国登録有形文化財の官報告示を受けた。



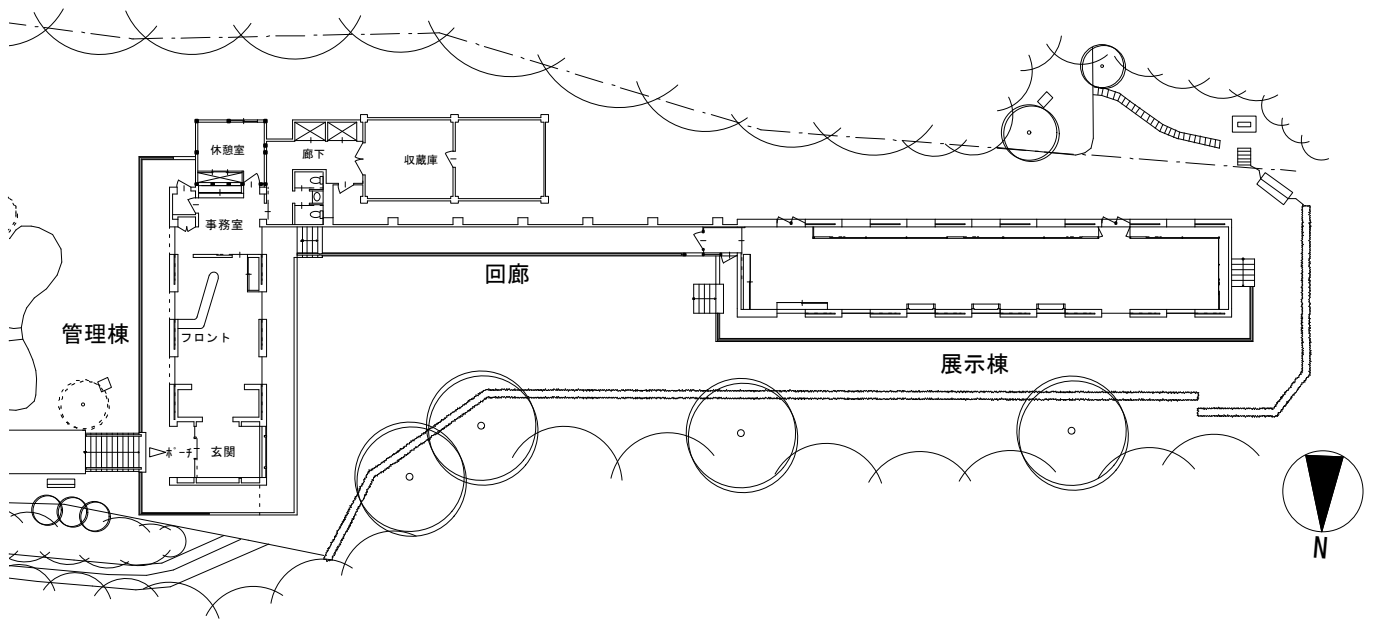


図1 良寛記念館 平面図

下 写真1 良寛記念館管理棟 北東より  
 次頁上 写真2 良寛記念館回廊 北東より  
 次頁下 写真3 良寛記念館展示棟 北東より







## 小千谷市歴史的建造物調査業務

発注者：小千谷市

受託期間：平成 27 年 11 月 2 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 西澤 哉子

### 1. はじめに

小千谷市から、小千谷市小栗山に所在する小栗山観音堂と小千谷市時水に所在する習静菴しゅうせいあんの建物について、長岡造形大学に建築調査の依頼があった。長岡造形大学では建築調査を平成 27 (2015) 年 11 月に実施した。本稿においては調査の結果に基づき、両建物の建築年代、平面の復原のなどについて考察を報告するものである。

### 2. 小栗山観音堂

#### 2-1 小栗山観音堂の概要

小栗山観音堂は現在、堂内に安置され仏像は内陣中央に本尊として如意輪観音菩薩像、向かって右側に行基菩薩像、向かって左側に大黒天像を配し、両脇檀に 16 体ずつ観音像を安置するが、いずれも木喰上人による制作である。35 体は仏像背面に記された墨書銘から享和 3 (1803) 年 8 月に制作と明らかである。墨書などによれば、仏像は火災後の再建されたものの仏像の安置されていなかった観音堂に対し、86 才の木喰上人が彫ったという。

なお、仏像は昭和 43 (1968) 年、新潟県指定有形文化財に指定されている。

#### 2-2 小栗山観音堂建物の概要

##### ・配置と形式、規模

小栗山観音堂へは国道 291 号を小千谷市の中心市街地から東進し山古志方面へ向かう。途中、小栗山方面へ向かうため、県道 516 号千足呼坂線を北側に折れ、山道を登るとここが小栗山の地となる。敷地はこの県道から更に東に折れ、小千谷闘牛場の位置する山裾側に位置する。

境内は間口 25m 程、奥行 40m 程の規模で、この中央に南面して観音堂が配され、敷地背面に便所が置かれる。

観音堂は、正面 3 間、奥行 3 間となる方 3 間四方の規模で、正面中央に 1 間の向拝を有するものとなる。

##### ・平面

方 3 間の観音堂は正面側 2 間を外陣とし、背面 1 間を内陣とする。内外陣境は鉄格子とし中央間は引き分けとする。内陣奥は棚があり中央間には本尊の如意輪観音菩薩像、左右に大黒天像と行基菩薩像を配する。左右の脇棚は階段状に 4 段となり、16 体ずつの観音像が祀られる。

#### 2-3 小栗山観音堂の建築年代と復原考察

##### ・建築年代

主屋の建築年代を示す 1 次資料を建築調査において見出すことはできなかった。但し、伝承で建物は火事で焼失し、木喰上人が享和 3 (1803) 年に仏像を彫った際には、建物のみが再建された状態であったとするため、建物の建立は 19 世紀初頭頃とする。

一方、建物に残る彫刻絵様を観察すると、渦紋の刻線は太くて深く、渦紋に加え玉、若葉も併せて確認することができることから、伝承の 19 世紀初頭頃が建築の年代とすることができる。

##### ・復原考察

建物を見ると各所に改造に伴う痕跡を確認することができた。外陣は両側面柱間が現状では引き違いの板戸となるが、各柱間内側には板溝があることから、当初は板壁であり、全体的に閉鎖的な構成であったことが分かる。

内外陣境は現状で鉄格子するが、これは平成 16 (2004) 年における中越地震以後の改修によるものとされる。当初は格子であったものと推察される。

内陣は現状で各間に設けられる棚は中古で、当初は背面柱筋から 1.5 尺奥行の棚に復され棹縁天井に復される。

小屋組はいずれも新しいが、当初は茅葺で、現状の金属板葺改造時に小屋組が改造を受け、三軒になった。

縁は、現在両脇は内外陣境までのびるが、当初は 1 間短かったものと考えられる。また、現在、縁正面は当初は隅扱首を用い、縁板を張る構成に復される。なお、現状において高欄の頂部に配される架木は長方形断面であるが、当初は、一般に広く見られる円形断面の形状のものであったと考えられる。

#### 2-4 調査から判明した点

小千谷市小栗山に所在する小栗山観音堂について建築調査を実施し、建築年代などについて考察を行ってきたが、明らかとなるのは以下の諸点である。

- 1) 観音堂の建築年代は 19 世紀初期頃と伝承されるが、彫刻絵様から判断すると、伝承の 19 世紀初頭頃を建築の年代とすることができる。
- 2) 当初の観音堂は外陣の両側面が柱に残る板溝から板壁に復され、極めて閉鎖的な平面に復されることとなる。また、当初における内陣は、棚が奥行 1.5 尺程と浅いものであった。
- 3) 当初の屋根形式は茅葺の入母屋造に復される。
- 4) 観音堂の組物は片蓋形式で、柱が直接梁組材を受ける、当該地域において広く見られる形式を有している。



### 3. 習静菴

#### 3-1 習静菴の概要

習静菴はもともと小千谷市片貝の安達家に建てられた茶室を2度に渡り移築した。付属する土蔵は小千谷市千谷川の星野家から寄進され、移築したものである。

#### 3-2 習静菴の沿革

茶室は大正12(1923)年の建築と伝承される。茶室は安達家から譲られたもので、時水の丘陵に平成13(2001)年に移築され、平成19(2007)年に改めて現在地へ移された。

土蔵は平成19(2007)年に移築された。

#### 3-3 習静菴茶室と土蔵の概要

##### ・配置と形式、規模

習静菴が位置する時水は、小千谷市でも信濃川西岸の西山裾野に位置することになる。中心市街地からは、国道117号から県道520号を西に折れ、更に市道を進み、小千谷市指定文化財とされる時水城跡登山道入口となる馬場(姥)清水に向かう道の傍ら、道北側となる。

敷地の規模は東西60m程、南北30m程の規模で、北側は背面に迫る山裾の傾斜地となる。敷地東側が一段低くなり駐車場が設けられ、西側に寄って、茶室、土蔵が配される。

茶室は東面する形式で、建物の規模は桁行が3間半、梁行1間半の前後と北側背面に半間規模の下屋が取り付く。形式は木造平屋建、切妻造金属板葺となる。

土蔵は桁行4間、梁行2間半の規模で、形式は木造二階建、切妻造金属板葺となる。

##### ・平面

茶室は北面し、西側を四帖半の座敷で「待合」とする。東側に床と押入を配する。この北側下屋は土庇で臼を使った飛石を配し、東側が三帖の「茶室」となる。茶室の躡口は東側に寄って開かれ、躡口正面に床を設けるものである。奥の1帖が手前畳となり、中柱を中程に立て炉を向切として設ける。南側の下屋は全体が廊下となり、茶室裏となる東側に水屋を置く。廊下は西側の下屋に回り込み四帖半裏側にも水屋を置き、北西角は物置とする。

土蔵は東側の平面に引き戸形式の入口を設けるが、玄関北側にも通用口を設ける。1階は1室の板敷である。2階へは通用口横の階段から上がる。茶道具を展示する展示ケースが並び、一角を区切って物置とする。

#### 3-4 習静菴茶室と土蔵の建築年代と復原考察

##### ・建築年代

茶室の建築年代を示す1次資料は見いだされなかったが、北側下屋上に掲げられる扁額下端には“大正十二季五月五泉関塚彫”の刻銘を確認することができた。従来はパンフレットに“棟札に大正十二年(一九二三)五月とあり”とする記載が見られたものの棟札類は見出せなかったため、記載はこの刻銘に基づくと考えることができる。

土蔵からも建築年代を示す1次資料は見出されなかった。なお、建物は移築に際して番付より軸部材はそのまま移動したと見ることができたが、土壁及び下地材は外されていた。小舞を止めた釘穴を確認すると、これには和釘と洋釘両方を見ることができ、土蔵は明治10(1877)年代後半頃の建築と判断できる。

##### ・復原

茶室の2回の移築はいずれも曳家であったため、建物は比較的良好な状態にある。但し、第1回目の移築では高速道路下を通過するに際し屋根がつかえ、一部材の解体を行ったとする。平成13(2001)年から平成19(2007)年までは現状の西側に入り口を設け出入りをしてきたことが2回目の移築を記録した写真から判明する。また、南側下屋も玄関を設けるに際して改造が行われた。なお、「茶室」、「座敷」における改造はないが、聞き取りによると建物は中越地震において壁面に大きな被害を受け、壁は塗り直しの修理を行ったと言う。

土蔵の軸組は基本的にそのまま移築されているようであるが、1階床は納まりから見ると当初土間使いであったものが、板敷に変更を受けた。また、現状の階段位は当初から移動を受けた。

#### 3-5 調査から判明した点

習静菴の茶室と土蔵について建築調査から明らかとなるのは以下の諸点である。

- 1) 習静菴の茶室の建築年代は、扁額下端には大正13(1924)年5月制作の刻銘が確認されることから、建物は明治時代末頃の建築と判断できる。
- 2) 茶室は平成13(2001)年、平成19(2007)年の2回に渡る移築を受けたが、平成13(2001)年から平成19(2007)年の間は、西側下屋を入口として利用し、現状で玄関に通じる南側下屋は窓と棚に復原できる。
- 3) 土蔵では、釘に和釘と洋釘両方が確認できたため、明治10(1877)年代後期頃の建築と判断できる。



写真 1-1 小栗山観音堂 外観 南より



写真 1-2 小栗山観音堂 外観 北東より



写真 1-3 小栗山観音堂 外陣 南東より



写真 1-4 小栗山観音堂 内陣 南東より  
撮影 いずれも田村収

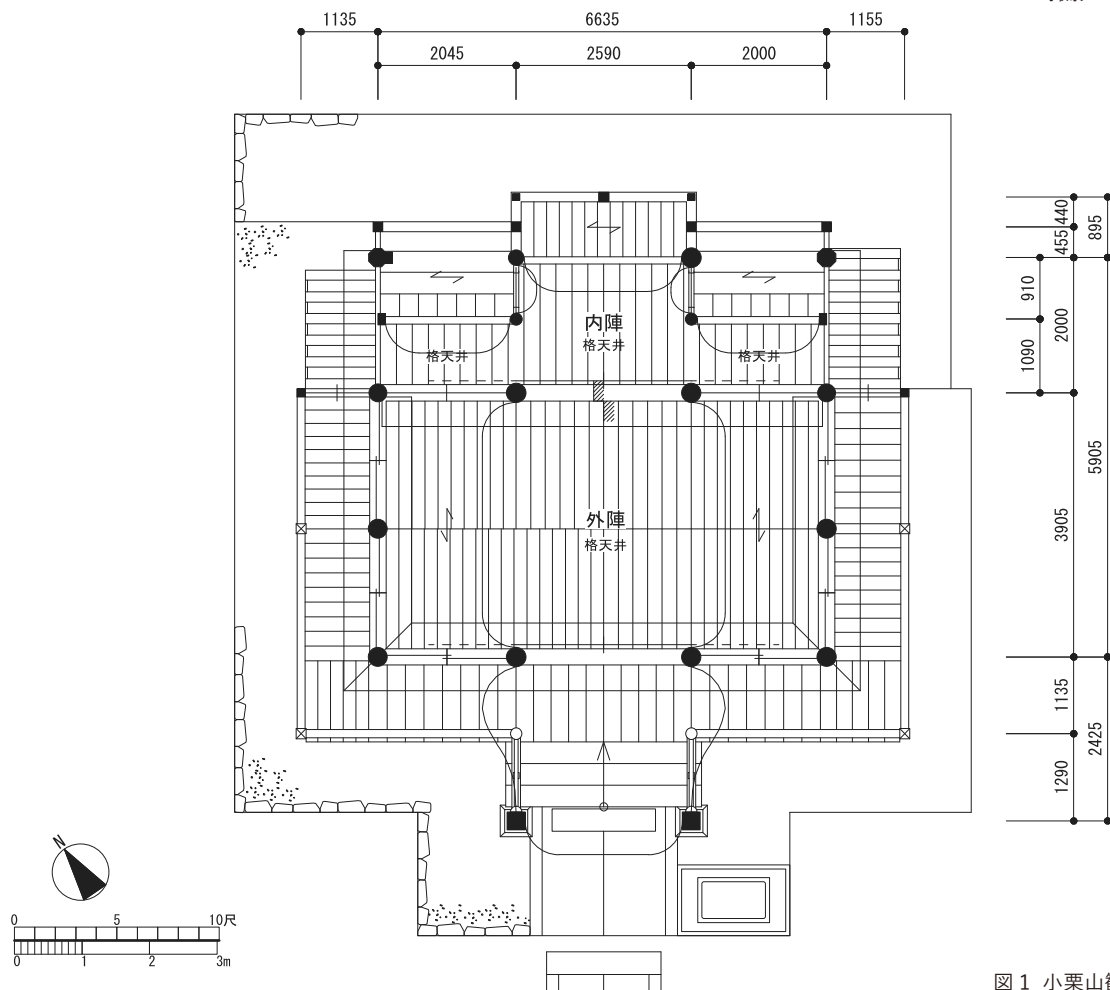


図 1 小栗山観音堂 平面図



写真 2-1 習静菴 外観 北より



写真 2-2 習静菴 外観 北東より  
撮影 いずれも田村収



写真 2-3 習静菴 茶室 北東より



写真 2-4 習静菴 土蔵 南より

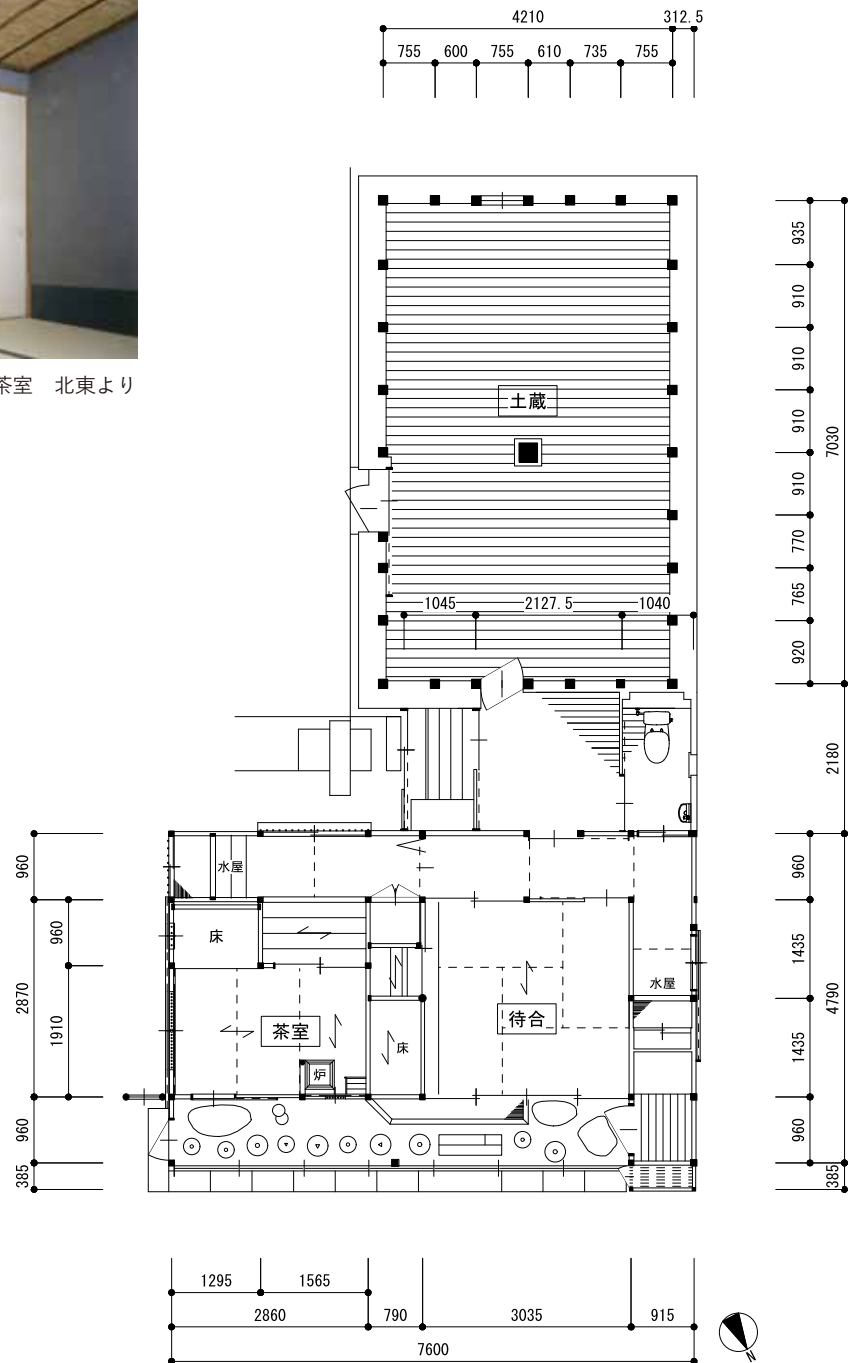


図 2 習静菴 茶室・土蔵 平面図



## 歴史的建造物詳細調査業務委託

発注者：長岡市

受託期間：平成 28 年 1 月 15 日～平成 28 年 3 月 25 日

プロジェクト主査：平山 育男（建築・環境デザイン学科 教授）

プロジェクトメンバー：研究員 西澤 哉子、早川 知子

### 1. はじめに

平成 27 (2014) 年度には長岡市からの依頼で、長岡市における歴史的建造物の建築調査を実施した。

本稿では以上の建築調査から明らかとなった建物の内、長岡市宮原に位置した、美の川酒造において展示館などとして使われていた酒造館についての報告を行う。

### 2. 美の川酒造の概要

美の川酒造は長岡市宮原 2 丁目に位置した酒造会社である。

酒蔵を開いた松本家は、牧野家とともに長岡の地に移り住んだとされる。元々は美濃の国の生まれであったため屋号を「**美濃屋**」とし、19 世紀前半となる文政 10 (1827) 年に酒造業を創業した。当時は、千手町の庄屋を務め、殿様酒屋とも呼ばれたという。

建物は昭和 20 (1945) 年の長岡空襲を受けたが、酒造館として使う土蔵のみがこの戦禍を耐え抜き、現在に伝わるという。

なお、会社は平成 26 (2014) 年 6 月で蔵を閉じたが、「美の川」「良寛」の銘柄は津南の苗場酒造に継承され、製造が行われている。

### 3. 美の川酒造酒造館の概要

#### ・配置と形式、規模

美の川酒造の敷地は、県道 498 号線に東面するもので、間口 20m 程、奥行 70m 程のものであった。

敷地にはかつて住宅を始め、醸造蔵などが建ち並んでいた。

酒造蔵は元々、衣装蔵として造られたものとされる。建物の形式は土蔵造 2 階建、切妻造妻入棧瓦葺の形式で、その周囲に、下屋として東側に蔵前があり、南側に増築で階段、台所などが付加する。

建物の規模は梁行 3 間、桁行 4 間半となる。

#### ・平面と部屋の構成

2 室の居室を配するものである。表となる東面に上手から 8 帖、4 帖の仏間、中廊下を挟んで既述の 8 帖管理人室となり、廊下が東面と北面に廻る。中廊下の奥が続き座敷で、北側が 6 帖、南側が 8 帖となるが、8 帖は玄関上手に位置し、外からの入室も可能である。

酒造館の建物は、県道からやや奥まった、敷地の中程に位置する。入口は酒造館東側に設けられた蔵前の北側面に設けられた入口のガラス戸から入る。蔵前の中は 1 間半、奥行は 4 間半あり、土蔵の背面の増築部分に回り込む。背面の増築部で靴を脱ぎ、2 階への階段と便所が配される。

増築部 2 階は廊下と台所となる。

土蔵への入口は、蔵前部分に面して切妻妻入形式となる東面に 2 枚の開き戸形式で土戸が設けられる。入口は更に引き戸の土戸、板戸、網戸が立てられる。1 階は展示場として用いられ、入口周囲の 1 間四方が入口に高さを合わせて高く、他は階段 2 段分低い。南と西面に展示棚がくの字形に設けられる。窓は北面に 1 箇所開く。

2 階は増築部の南側から入る。室内は 1 室で床下収納が 4 箇所にある。窓は北及び東面中央間に設けられる。

#### ・構造

小屋組は西から 2 間となる柱に折置組で屈曲した松梁を架け、中央の棟束が地棟を受ける。両妻面では 2 重の和小屋組で地棟を受ける。母屋は用いず垂木が化粧裏板を受ける。なお、この構成は長岡市摂田屋に位置する大正 15 (1926) 年建築のサフラン酒造本舗事務所蔵（鍍絵蔵）に類似する。

### 4. 美の川酒造酒造館の建築年代及び復原考察

#### ・建設年代

地棟東側下端に東側を頭として“大正拾壹年”とする墨書が見られ、これが建築年代と考えられる。

なお、家伝によれば、この蔵は大正 8 (1919) 年に着工し、4 年の歳月を掛けて造ったもので、屈曲の強い梁は赤松、地棟は秋田杉の磨丸太を用いたという

なお、建物は昭和 20 (1945) 年 8 月の長岡空襲により被害を受けたものの、周辺の火事が鎮火後、数日をおいて室内の温度が下がるのを待ってから開扉し、火災を免れたと伝えられる。

#### ・復原考察

外部が昭和時代末に改修が行われ、この際に蔵前、増築部の整備があり、1 階の床の改造なども併せて実施されたという。

### 5. さいごに

美の川酒造酒造館の考察から明らかになるのは以下の諸点である。

- 1) 美の川酒造酒造館は 2 階地棟にある大正 11 (1922) 年の建築と考えられる。
- 2) 曲がりの大きい小屋梁、磨丸太の構成は、比較的近い摂田屋に所在する大正 15 (1926) 年建築のサフラン酒造本舗事務所蔵（鍍絵蔵）に類似する。

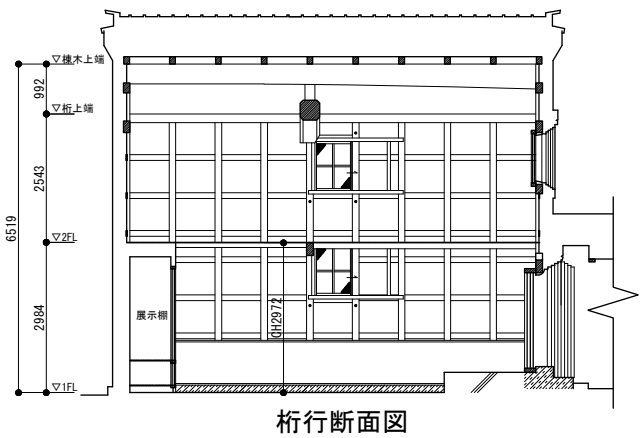
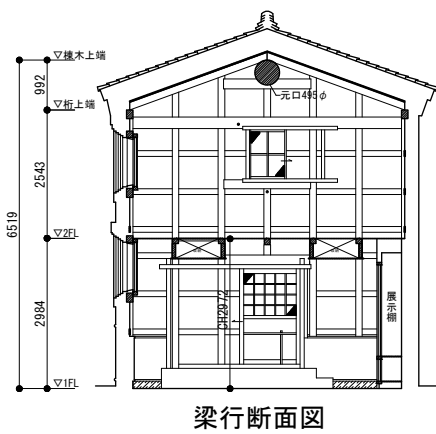
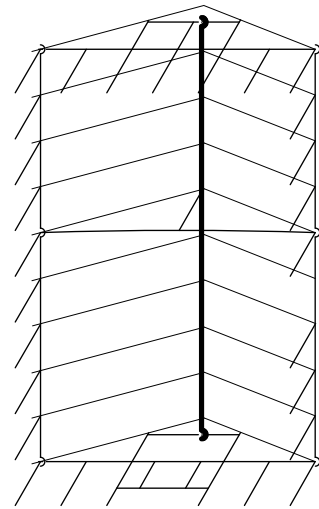
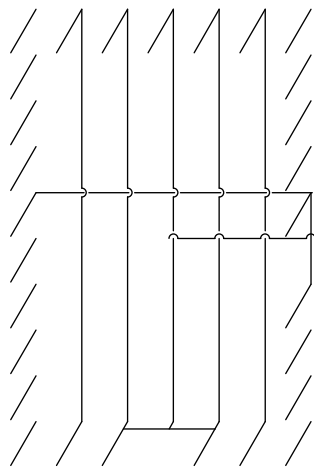
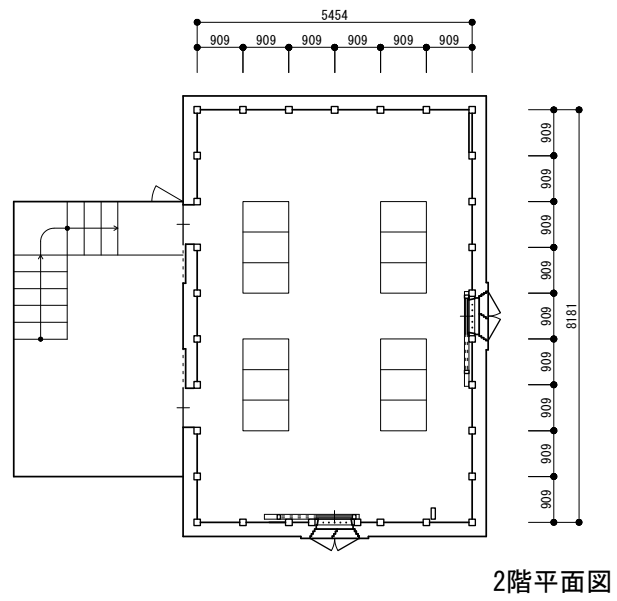
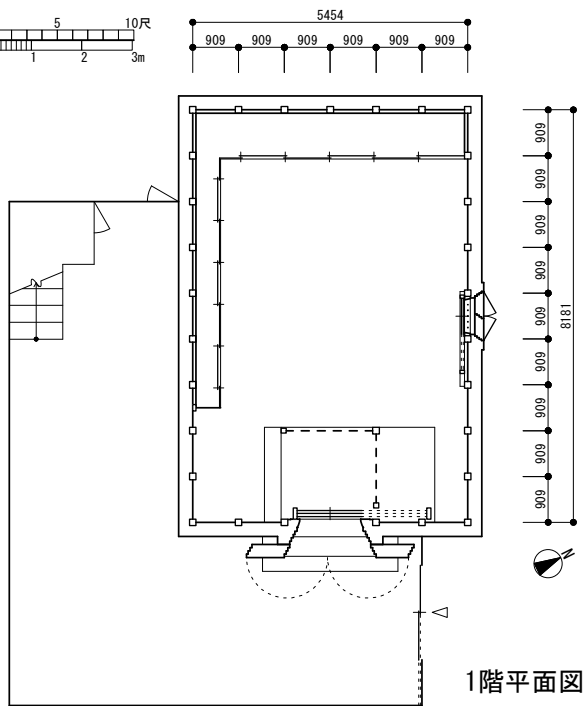
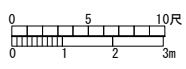


図1 美の川酒造酒造館 平面図



写真1 美の川酒造酒造館 外観 北東より



写真2 美の川酒造酒造館 扉 東より



写真3 美の川酒造酒造館 扉 東より





写真4 美の川酒造酒造館2階 東より



写真5 美の川酒造酒造館1階 南東より



写真6 美の川酒造酒造館2階 西より

# 小千谷市人口ビジョン及び総合戦略策定支援業務

発注者：小千谷市

受託期間：平成 27 年 5 月 25 日～平成 27 年 9 月 30 日

プロジェクト主査：澤田 雅浩（建築・環境デザイン学科 准教授）

## 1. 地方版総合戦略の策定と人口ビジョン

平成 26 年 11 月に施行された「まち・ひと・しごと創生法」において、都道府県および市町村においてはまち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「地方版総合戦略」）の策定が求められることになった。これまでは地方自治法に基づいて計画期間 10 年の総合計画を策定することが定められていたものが、任意計画となったのとは対照的である。総合計画は行政計画の最上位計画として、とにかく抜け・漏れ・落ちのないものとして策定してきたが、地方版総合戦略に関しては、まずは自治体が独自に①しごとづくり②人の流れ③結婚・出産・子育て④まちづくりに係る各分野を幅広くカバーすることが求められつつ、人口減少を食い止めるための方策を短期的に進めていくことも求められている。

その前提として、将来人口推計に基づいた「人口ビジョン」の策定もまた必須の行程として提示されている。市町村においては、これまで総合計画や都市計画マスタープラン等で将来人口推計に基づいた計画を策定することもあったものの、実際には詳細な予測等は行われていなかった。より現実的にかつ策定する地方版総合戦略が国の政策五原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）にも見合ったものにするために、しっかりとした人口ビジョンを策定する必要に迫られた。

そういった状況の中、新潟県小千谷市からの委託を受け、小千谷市の総合計画策定委員会の委員長も務めるプロジェクト主査（澤田 雅浩）が、人口ビジョンの策定支援、および地方版総合戦略策定支援業務を行った。ここでは業務で行った人口推計等の結果とその分析について幾つか代表的なものを報告する。

## 2. 人口動向分析

### ①総人口の推移【1960年～2040年】

第一次ベビーブーム（1947～1949）の影響もあり、1960年には約5万人の人口を有することとなる。しかし第二次ベビーブーム（1974～1979）時、全国的には出生数増大の影響があったが、小千谷市に関してはあまり大きな人口増加の傾向には結びついていない。

結果として1980年に若干の人口増加がみられたものの、1960年以降2010年に至る50年間、人口は減少し続けているといえる。



### ②年齢三区分別人口の推移と将来推計【1960（昭和35）年～2040（平成54）年】

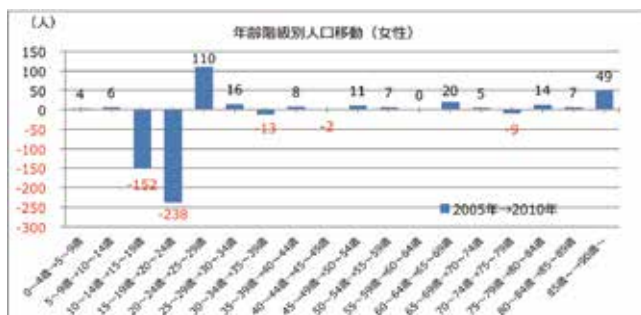


1990～1995年の間に、0～14歳の人口と、65歳以上の人口が逆転（老年人口が卓越）している。しかし、統計上の数値が存在する1955年以降、少なくとも2040年くらいまでは0～14歳の人口と65歳以上の人口の合計はほぼ一定に推移する。

### ③性別・年齢階級別の人口移動の最近の状況

性別に関係なく、10～14歳→15～19歳へ階級が移動する際、15～19歳→20～24歳へ階級が移動する際に大きく減少している。進学（18歳時点）、就職（20歳、22歳時点）で小千谷市を離れる層が多くなっている。

20～24歳→25～29歳へ階級が移動する際にはそれぞれ100人程度増加している（ただし、その前の年齢階級で小千谷市外に転出した人口を補うほどではなく、この時点で男女ともに100人以上の減少がある。



### 3. 将来人口推計

#### ①パターン1（社人研）とパターン2（創生会議）と総人口の比較



パターン1：出生数、死亡数は近年の傾向を踏まえる純移動率が2015~2020年までに1/2に、その後2040年まで一定

パターン2：出生数、死亡数は近年の傾向を踏まえる純移動数も近年の傾向を踏まえる

先の人口動向分析で明らかとなったように、高校卒業時、もしくは専門学校・大学卒業時の転出超過が多くなり、いったん小千谷市を離れたそれらの人口の半数程度しか卒業、就職の契機に戻ってこないのが小千谷市の傾向である。

2015年以降の人口推計において、創生会議の設定はそのような人口移動が変化しないことを前提として行われており、現在の小千谷市の状況を踏まえると、そちらの推計に近い状況となる可能性を十分に考慮しておく必要がある。

両者の2040年時点での推計人口の差は1,694人である。かりにこれがすべて生産年齢人口だったとしても、移動率を半分にするためにかかる費用対効果をきちんと考えることも重要である。

#### ②人口減少段階の分析（パターン1に基づく）



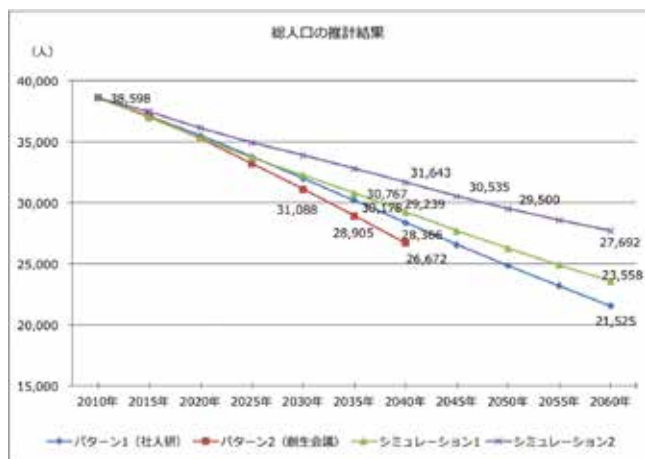
2020年までが人口減少段階の第一段階（老年人口増加・総人口減少）2040年までが第二段階（老年人口維持、総人口減少）となる。

2040年までが第一段階、それ以降に第二段階へと移行する全国の傾向と比較すると、20年程度、人口の減少段階は先行していることになる。0～14歳の人口は、2010年比6割程度になった時点で減少傾向が弱まる可能性がある。

全国的な高齢化の傾向、特に大都市圏の傾向よりは20年進んだ状況にある。なお、老年人口減少、総人口の急激な減少が懸念されるのは2040年以降となる。



### ③総人口の分析



現状の社会構造のまま人口減少が進むと（パターン2）2030年と2035年の間に人口が3万人を割り込むことになる。2040年の時点では26,672人である。

シミュレーション2（パターン1 + 合計特殊出生率2.1）ではその水準まで人口が減少するのは2060年（27,692人）であり、出生率の向上、社会増減の均衡が実現すれば人口減少を20年程度遅らせることができるといえる。

また、人口の移動がこれまでの半分になることを想定したパターン1とパターン2では人口減少を5年程度遅らせる効果がある。

合計特殊出生率が2.1まで上昇し、さらには社会増減が均衡するという設定のシミュレーション2でしか、2040年の時点で人口総数30,000人を維持することができない。

### ④老年人口比率の変化（長期推計）

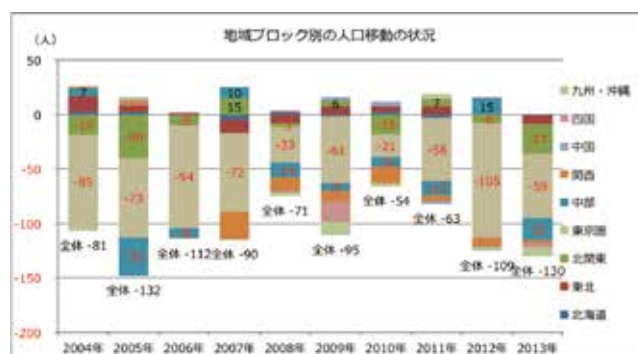


小千谷市の場合、老年人口（65歳以上）比率は2045年から2050年の間にピークを迎え、その後は相対的に減少していくこととなる。その際の上限值はほぼ40%であり（パターン1、2050年時点で40.8%）、その場合においても生産年連人口はそれなりに確保されている（同上の時点で48.7%）。ただし、後期高齢者（75歳以上）比率では異なる傾向を見せる。2035年まで急激に割合が増加（団塊の世代の影響）し、その後伸びは緩和されるものの、パターン1ではその後も割合が増加していく。

65~75歳の社会参画を促しつつ、2035年をめぐりに後期高齢者対策を充実させておく必要がある。

## 4. 人口ビジョン策定のための基礎的な分析

### ①地域ブロック別の人口移動の状況



小千谷市からは東京圏への移転が高等教育機関の立地、就職先等の充実、そして比較的近い距離に位置していることから最も多くなっている。移動数の増減はあるが、東京圏へは人口流出が続いている。次に多くの人口移動がある北関東エリアに関しては、都市によって人口流入が卓越することもある。東京圏への人口流出は一定程度将来的にも見込んでおく必要がある。

## ②県内市町村別の人口移動の状況



新潟県内における人口移動に関しては、長岡市への移動が最も多くなり、これが社会減の一要因となっている。一方で魚沼市、南魚沼市、十日町市からは転入超過が続いている。新潟市に関しては男性は比較的転出と転入の数が均衡しているが、女性に関しては2008年、2013年と長岡市とともにかなりの転出超過の傾向がある。女性は新潟市、長岡市への転出が男性よりも多くなっている。

## 5. 地方版総合戦略への反映

これまで例示してきた人口ビジョン策定のための各種分析によって、小千谷市としては、2040年の推計人口を29,000人と定めている。これは社人研の推計よりも634人、創生会議の推計よりも2,328人多い数字となる。また2025年の推計人口は34,000人としている。これを基本として、地方版総合戦略としては、

少子化・高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、地域で住みよい環境を確保して将来にわたって活力ある社会を維持し続けていくまちを目指します。

技(しごと)が輝き、まちが活力に満ち、ひとに笑顔が溢れる、安心して住み続けられる産業のまち、元気

なまち おぢや であるために、基本的方向性をもとに、4つの基本目標により、まち・ひと・しごと創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施します。

- ①しごとをつくり、多様な雇用を創出する(しごとづくり)
- ②新しいひとの流れをつくる(ひとの流れ)
- ③結婚・出産・子育ての安心感を高める(結婚・出産・子育て)
- ④時代に合った暮らしやすいまちをつくる(まちづくり)

としている。

## 6. さいごに

地方創生の動きが加速する中、法定計画としての地方版総合戦略の策定手法が確立せず、その根拠として人口ビジョンの策定が求められることは、計画の実現性を高めるものである一方、地方自治体にとってはかなりの負担がかかることも事実である。策定はなるべくコンサルタント等への外部委託を行わないようにという通達もなされているが、計画の本体はさておき、人口ビジョンの策定等については、地域の大学等による知的貢献が必要であろう。それを実感する受託事業となった。

# おぐに森林公園試験的な森づくり提案書作成業務

発注者：長岡市小国支所

受託期間：平成 28 年 3 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

プロジェクト主査：澤田 雅浩（建築・環境デザイン学科 准教授）

## 1. 受託業務の概要

### 1) 業務の目的

小国地域の宝であるおぐに森林公園の新たな活用方法を見出すため、長岡造形大学が平成 27 年度「地域協創演習」において調査、検討を行い、「地域の宝磨き事業おぐに森林公園活性化に関する提案」をまとめた。今後、おぐに森林公園の活用を検討する際に、認識を共有する資料として活用することを目的として、提案書の作成が委託された。

### 2) 業務委託の内容

おぐに森林公園試験的な森づくり提案書の作成

長岡造形大学が平成 27 年度に調査、検討を行った「地域の宝磨き上げ事業 おぐに森林公園活性化に関する提案」を基に作成する。

## 2. 検討の経緯

提案書の作成は、平成 27 年度長岡造形大学地域協創演習の一環として行われている。その検討経過は下記の通りである。

テーマ：おぐに森林公園を学生の目線から捉え直し、活用方法を提案する

スケジュール：

平成 27 年 5 月	顔合わせ、ガイダンス おぐに森林公園の現地踏査 地域住民や管理者とのワークショップ
平成 27 年 6 月～8 月	ワーキンググループによる検討 ・バックカントリーエリアの活用 ・子供のための体験プログラム開発 ・シスト（宝探し）プログラムの開発 ・谷筋エリアの活用検討
平成 27 年 8 月	法末集落の山車飾り制作
平成 27 年 9 月	中間報告及び意見交換
平成 27 年 10 月	オー！グリーンマーケット でのシスト（宝探し）の実施

## 3. 提案の概要

おぐに森林公園は現在、公園として整備された範囲の一部を活用している。トリムコースが整備されていた芝生広場や野鳥の森は利用者の減少に伴い、最低限の管理はなされているが、積極的な活用は図られていない。

また第一林間広場に隣接する各種施設については、耐震性の懸念から、利用方法が限定されている。さらに養楽館および体験交流施設については、日帰り利用のみとなっている。

現時点では、さまざまな可能性を秘めているものの、それぞれの利用が限定的になっていることで、特徴を組み合わせた相乗効果を発揮することができていない状況にある。そこで今回は、まずこれまで最低限の管理を行ってきた芝生公園、野鳥の森を含むエリアを「バックカントリーエリア」とし、その空間利用をのぞむ主体とともに整備、利活用を図ることを提案している。

テーマ型の利用を進めることで、結果として「自分たちの場所」と感じる層を拡大、持続的な動きを作り出すことが可能になると分析を行っている。その計画を軸として、それを補完する施設の整備等を行うことを併せて3つの提案を行った。

- ①バックカントリーエリアの設定とその利活用
- ②活動主体の多様性に伴い発生する施設利用ニーズへの対応
- ③既存施設の利活用も含めた各種プログラムの提案

## 4. 具体的な提案

具体的な提案事項は下記の通りである。

### 1) バックカントリーエリアの設定とその利活用【ゾーン3】

- ・サバイバルゲームのフィールド、MTB のコース、トレイルランニングのコースとしての活用
  - » バックカントリーエリア運営チームの設立
  - » バックカントリーエリアを利用したい主体が年度当初の環境整備を担う
  - » 利用時期、利用方法は運営チームを中心とした関係者による協議会で決定する
- ・整備によって起こりうるアウトカム
  - » 回収した倒木等については、工作ワークショップ等の材料として活用
  - » 宝探しゲーム（シスト）のコースバリエーションが増加する
  - » ある程度整備されたフィールドを利用したい主体が新たに参画する（例：コスプレの撮影会）
  - » 活用プログラムと連携させた出会いの場の創出



## 2) 活動主体の多様性にもなって発生する施設利用ニーズへの対応【ゾーン1】

- 既存施設の利活用促進のための整備改修の必要性
  - » 延命山荘の宿泊機能回復（耐震補強の必要性）
  - » 管理棟の機能拡大（耐震補強の必要性）
  - » 養楽館の宿泊機能追加
  - » 宝探しゲーム（シスト）の宝箱制作および保管場所の提供
  - » SLの運航再開に向けた協力体制の構築
  - » SL広場、もしくは第一林間広場内に簡易な遊具の新設

## 3) 既存施設の利活用も含めた各種プログラムの提案

- バックカントリーエリア整備イベント【ゾーン3】
  - » 雪解けとともに開催
  - » 中越よつば森林組合から機材の貸与、作業方法の指導等を受け、利用を希望する主体が作業
  - » 地元有志は、作業後のもてなし対応（交流会として）
  - » 作業後の倒木等はオブジェ等の創作用素材として確保
- 森林公園の素材を活用したものづくりワークショップの開催【ゾーン1】
  - » 森林公園で確保した素材をなるべく利用したものづくりワークショップの開催
  - » 対象は、長岡造形大学等の建築やものづくり、アートなどに関心をもつ学生
  - » 夏休みには大学生+子ども+地元住民のコラボレーションワークショップの可能性もあり
  - » 宝探し（シスト）で活用する宝箱や宝物の制作もワークショップ形式を検討する
  - » 制作した作品の一部は森林公園に設置、壊れたら翌年の整備時に処分もしくは修復
- 宝探しゲーム（シスト）の継続的实施【ゾーン1】
  - » グリーンマーケット等のサブイベントとして実施
  - » 宝箱づくり、ルート設定、宝物づくりをワークショップとして開催

- 子どもの自由研究お手伝いキャンプ【ゾーン1】
  - » 森林公園内の生物多様性を活かした、昆虫採集や草花の観察
  - » 研究結果の取りまとめは大学生等がサポート
  - » 1泊2日、もしくは2泊3日で実施
- 春の谷筋エリアを楽しもう【ゾーン2】
  - » 谷筋エリアの散策、およびピクニックの実施
  - » なお、これに関連する環境調査は別途実施した。



図：今後の利活用におけるゾーニング

表：通年の活動スケジュールイメージ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
BC 整備	←→											
BC 活用	←→											
MTB	←→											
トレイルランニング	←→											
WGS	←→											
キャンプ	←→											
ピクニック	←→											

表：通年の活動スケジュールイメージ

## 5. さいごに

今回の業務と前後して、おぐに森林公園をメイン会場としたトレイルランニングのイベントが開催され、平成28年度は更に規模を拡大して企画されるなど、地域の宝としての活用が進みつつある。今回の提案もそれらの一助となることを願っている。



## デザイン研究開発について

長岡造形大学は平成26年度より公立大学法人となりました。前身であるデザイン研究開発センターでの受託研究プロジェクトはデザイン制作と調査、コンサルティングが中心でした。平成26年度以降は公立大学法人の社会連携と知的財産取り扱いの考え方に基づいて、今後のデザイン研究開発について整理していきます。

### クライアントの依頼目的と依頼内容

クライアントの目的は営利と非営利に分けられます。

営利目的には

- ・調査・研究
- ・事業アイデア発想
- ・商品企画・開発
- ・事業実施
- ・検証、等

非営利（公益）目的には

- ・調査研究
- ・コンサルティング
- ・まちづくり、地域づくり、メセナ活動、等

依頼内容には

- ・調査・アンケート
- ・実験、分析
- ・文化財調査
- ・コンセプト提案
- ・商品企画
- ・商品デザイン制作、試作
- ・イベントプロデュース
- ・広報物デザイン制作
- ・広報用作品提供

等が考えられます。これらの目的と依頼内容の種別をもとに学内調整を図り対応体制を提案していきます。

### 想定されるクライアント

- ・国・自治体
- ・公益法人
- ・企業
- ・任意団体
- ・個人 など

### 社会連携形態の調整

社会連携依頼の内容に対応して以下の種別や連携形態が考えられます。

1. 教育（連携形態：アクティブラーニング、インターンシップ）
2. 研究（連携形態：共同研究、受託調査研究）
3. 収益事業（連携形態：請負業務、大学知財利用許諾、学生知財利用許諾）
4. 紹介（連携形態：コンペ公募告知、アルバイト・ボランティア募集告知）

デザイン研究開発に関する相談は地域協創センターが一括窓口となっています。センターでは、依頼・相談内容に応じて上記のような整理のもとに連携形態を学内調整していきます。



# プロジェクト 担当教員



プロダクト  
デザイン  
学科

**土田 知也** Tomoya Tsuchida  
教授  
専門分野/プロダクトデザイン  
現在の研究課題/プロダクトデザイン全般  
最終学歴 + 資格/千葉大学大学院工学研究科修士課程 (工学修士)



視覚  
デザイン  
学科

**長瀬 公彦** Kimihiko Nagase  
学務部長  
附属図書館長  
教授  
専門分野/グラフィックデザイン, イラストレーション  
現在の研究課題/視覚表現の可能性の探究  
最終学歴 + 資格/東京藝術大学美術学部デザイン科, School of VISUAL ARTS, Fine Arts (NewYork)



視覚  
デザイン  
学科

**池田 光宏** Mitsuhiro Ikeda  
准教授  
専門分野/ヴィジュアルアート, コミュニケーションデザイン  
現在の研究課題/パブリックスペースにおけるアートプロジェクト  
最終学歴 + 資格/東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻



学長

**和田 裕** Hiromu Wada  
教授  
専門分野/トランスポートデザイン  
現在の研究課題/トランスポートデザイン  
造形のセオリー, エキースによる創造能力の向上  
最終学歴 + 資格/東海大学教養学部芸術学科



プロダクト  
デザイン  
学科

**増田 譲** Yuzuru Masuda  
キャリアデザインセンター長  
副研究科長  
教授  
専門分野/プロダクトデザイン  
現在の研究課題/3DCAD 3Dプリンターを活用したパーソナル・ファブリケーション, 新しい3D入力デバイスの研究  
最終学歴 + 資格/多摩美術大学デザイン科立体デザイン専攻  
プロダクト専修卒業, 慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程在学中



視覚  
デザイン  
学科

**長谷川 博紀** Hiroki Hasegawa  
教授  
専門分野/グラフィックデザイン, 広告全般, イラストレーション  
現在の研究課題/イラストレーション  
最終学歴 + 資格/東京藝術大学美術学部デザイン科



視覚  
デザイン  
学科

**吉川 賢一郎** Kenichiro Kikkawa  
入試部長  
准教授  
専門分野/グラフィックデザイン  
現在の研究課題/コミュニケーションデザインにおける機能美と形態美の探究, 本質を見極めたヴィジュアルアイデアの発想と表現について, 地域の伝統的な祭りにおける紙と絵巻で作られた灯籠の制作・素材に関する造形的研究  
最終学歴 + 資格/多摩美術大学美術学部デザイン科グラフィックデザイン専攻



プロダクト  
デザイン  
学科

**菊池 加代子** Kayoko Kikuchi  
教授  
専門分野/テキスタイルデザイン (織)  
現在の研究課題/ダマスク織機を用いた作品制作, Mariano Fortuny デルフォストレス復元研究, 『長岡造形大学草木染色図鑑』作成  
最終学歴 + 資格/多摩美術大学デザイン科染織デザイン専攻織専修



プロダクト  
デザイン  
学科

**金澤 孝和** Takakazu Kanazawa  
地域協創センター長  
准教授  
専門分野/プロダクトデザイン (家具・生活小物)  
現在の研究課題/必然から導かれるデザインの在り方について, 小規模伝統的産地の活路を開くために最適な支援システムの構築  
最終学歴 + 資格/東京造形大学造形学部デザイン学科



視覚  
デザイン  
学科

**アンドリュ・バン・ゴサム** Andrew Van Goethem  
教授  
専門分野/TESOL - Teaching English to Speakers of Other Languages  
現在の研究課題/Fossilization: "Empty Categories" Assisting, Larry Selinker (England) Sociolinguistics and Language Teaching Observation and Discourse Analysis  
最終学歴 + 資格/Masters Degree: TESOL, Temple University, Tokyo, Japan 1998 B.S.Degree: University of Wisconsin Stevens Point, 1983



視覚  
デザイン  
学科

**徳久 達彦** Tatsuhiko Tokuhisa  
准教授  
専門分野/Web デザイン  
現在の研究課題/可視化, UI, UX, VR, AR, コミュニケーション  
学歴等 + 資格/デジタルハリウッド大学大学院デジタルコンテンツ研究科 デジタルコンテンツ専攻 修了 (デジタルコンテンツマネジメント修士)



プロダクト  
デザイン  
学科長

**齋藤 和彦** Kazuhiko Saito  
教授  
専門分野/インダストリアルデザイン  
現在の研究課題/パーソナルトランスポートデザインとその造形表現手法, 地産地消型モビリティの研究  
最終学歴 + 資格/武蔵野美術大学造形学部工芸工業デザイン学科



プロダクト  
デザイン  
学科

**川越 ゆかり** Yukari Kawagoe  
准教授  
専門分野/服飾・衣装デザイン・製作  
現在の研究課題/持続的コミュニケーションツールとしてのファッション、ブランディング  
最終学歴 + 資格/文化服装学院服飾専門課程服装科



視覚  
デザイン  
学科

**ヨールグ ビューラ** Jörg Bühler  
教授  
専門分野/映像, マルチメディア, アート教育  
現在の研究課題/1 映像・動画, コンピュータ関係のアート 2 情報を伝えるためのヴィジュアル表現, 特に地図, 科学, 日常のための記号学  
最終学歴 + 資格/パーセル美術学校芸術教育専攻 (スイス), 高等芸術教員免許取得



視覚  
デザイン  
学科

**真壁 友** Tomo Makabe  
准教授  
専門分野/メディアアート, デジタルファブリケーション  
現在の研究課題/デジタル機器を活用した素材の加工及び、それを使った表現  
最終学歴 + 資格/東北学院大学大学院工学研究科応用物理学専攻 (工学修士)



プロダクト  
デザイン  
学科

**境野 広志** Hiroshi Sakaino  
教授  
専門分野/プロダクトデザイン  
現在の研究課題/機器操作に関する認知的研究  
最終学歴 + 資格/千葉大学大学院工学研究科修士課程 (工学修士)



視覚  
デザイン  
学科

**阿部 充夫** Mitsuo Abe  
教授  
専門分野/写真  
現在の研究課題/写真を使用した画像表現  
最終学歴 + 資格/東京写真専門学校商業写真科



視覚  
デザイン  
学科

**松本 明彦** Akhiko Matsumoto  
教授  
専門分野/写真  
現在の研究課題/写真を用いたアート表現  
最終学歴 + 資格/武蔵野美術大学造形学部基礎デザイン学科, 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科後期博士課程在学中



視覚  
デザイン  
学科

**御法川 哲郎** Tetsuro Minorikawa  
准教授  
専門分野/イラストレーション  
現在の研究課題/イラストレーションによるヴィジュアルコミュニケーション  
最終学歴 + 資格/多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科



プロダクト  
デザイン  
学科

**鈴木 均治** Kinji Suzuki  
教授  
専門分野/テキスタイルデザイン (模様染)  
現在の研究課題/型紙擦染におけるマチエールの研究  
最終学歴 + 資格/東京造形大学造形学部デザイン学科



視覚  
デザイン  
学科

**天野 誠** Makoto Amano  
教授  
専門分野/グラフィックデザイン (エディトリアルデザイン)  
現在の研究課題/エディトリアルデザイン  
最終学歴 + 資格/専門学校桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン研究科



視覚  
デザイン  
学科長

**山本 敦** Atsushi Yamamoto  
教授  
専門分野/グラフィックデザイン, 広告全般, ブランディング  
現在の研究課題/地域資源を活用したブランディングデザインの可能性の探究  
最終学歴 + 資格/専門学校桑沢デザイン研究所グラフィックデザイン II 科



視覚  
デザイン  
学科

**山田 博行** Hiroyuki Yamada  
准教授  
専門分野/写真, 映像  
現在の研究課題/写真的アプローチの映像表現の探求  
最終学歴 + 資格/武蔵野美術大学造形学部映像学科



視覚  
デザイン  
学科

助教

**金 峯 洙** Bongsu Kim  
専門分野 / グラフィックデザイン, 紋章・しるし文化, 内発的發展論に基づく地域開発計画  
現在の研究課題 / 伝統的なしるし文化に基底した地域の内発的發展の探究, 燕地域金属洋食器の模様に対する調査分析  
最終学歴 + 資格 / 千葉大学大学院工学研究科デザイン科学専攻博士課程 (学術博士)



美術・工芸  
学科

教授

**結城 和廣** Kazuhiro Yuki  
専門分野 / 美術科教育, 総合学習  
現在の研究課題 / 「発想・構想・表現・鑑賞における指導過程の類型化」, 「教材開発の視点」, 「児童画を読み解く鑑賞法」  
最終学歴 + 資格 / 弘前大学教育学部, 小学校教諭一種免許, 中学校教諭美術一種免許, 高等学校教諭美術一種免許



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**上野 裕治** Yuji Ueno  
専門分野 / ランドスケープデザイン, 生物棲息環境  
現在の研究課題 / 農村景観保全計画, 物語性のあるランドスケープデザイン  
最終学歴 + 資格 / 東京農業大学大学院農学研究科環境共生学専攻修士, 博士 (環境共生学), 技術士 (建設部門), 登録ランドスケープアーキテクト, 樹木医



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**森 望** Nozomu Mori  
専門分野 / ディスプレイデザイン  
現在の研究課題 / 展示デザインの基礎データに関する研究  
最終学歴 + 資格 / 多摩美術大学美術学部建築科, 一級建築士



美術・工芸  
学科

教授

**石原 宏** Hiroshi Ishihara  
専門分野 / 西洋美術史  
現在の研究課題 / 西洋中世美術史  
最終学歴 + 資格 / 早稲田大学大学院文学研究科芸術学専攻修士後期課程満期退学 (文学修士)



美術・工芸  
学科

副研究科長  
准教授

**岡谷 敦魚** Atsuwo Okanoya  
専門分野 / 版画 (銅版, リトグラフ, 木版)  
現在の研究課題 / 現代版画の可能性の探究  
最終学歴 + 資格 / 武蔵野美術大学造形学部油絵学科版画コース銅版画専攻, 東京藝術大学大学院美術研究科芸術学美術教育専攻



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**江尻 憲泰** Norihiro Ejiri  
専門分野 / 建築構造  
現在の研究課題 / 新素材の建築構造への応用, 制震等  
最終学歴 + 資格 / 千葉大学大学院工学研究科 (工学修士), 一級建築士, 構造一級建築士, JSCA構造士



建築・環境  
デザイン  
学科長

教授

**山下 秀之** Hideyuki Yamashita  
専門分野 / 建築意匠・建築設計  
現在の研究課題 / 自然のグローバルシステムに呼応する建築のヴィジョンを, 独自のモデルによって提示すること  
最終学歴 + 資格 / 東京工業大学大学院理工学研究科修士, 一級建築士  
<http://www.ae-lab.com/>



美術・工芸  
学科

研究推進部長  
教授

**遠藤 良太郎** Ryotaro Endo  
専門分野 / 絵画  
現在の研究課題 / 絵画空間の輪郭線とタッチ. 絵画的な獲得の諸条件. 美術の役割, 社会と人類について. 絵画論  
最終学歴 + 資格 / 東京藝術大学大学院博士課程 (後期) 美術研究科絵画専攻 (油画) 博士 (美術)



美術・工芸  
学科

准教授

**小林 花子** Hanako Kobayashi  
専門分野 / 彫刻  
現在の研究課題 / 木を基本素材とした立体表現の探究, 美術の社会へのかかわりと可能性の探究  
最終学歴 + 資格 / 愛知県立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修士



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**川口 とし子** Toshiko Kawaguchi  
専門分野 / 建築・インテリア・プロダクトのデザイン  
現在の研究課題 / 建築再生, グローバル・リージョナルな建築のあり方  
最終学歴 + 資格 / 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修士前期課程, 一級建築士, 管理建築士  
<http://arckacom.houzz.jp> <http://arcka.com>



建築・環境  
デザイン  
学科

研究科長  
教授

**渡辺 誠介** Seisuke Watanabe  
専門分野 / 都市計画, 観光まちづくり  
現在の研究課題 / JR東日本がきっかけになった長岡市根田地区まちづくり, 長期未着手都市計画道路に関する研究, 市街化調整区域内での農村景観に関する研究, 空き家の活用方法に関する研究  
最終学歴 + 資格 / 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程 (工学博士)



美術・工芸  
学科

教授

**大森 修** Osamu Omori  
専門分野 / 言語技術教育, 特別支援教育  
現在の研究課題 / 指導技術  
最終学歴 + 資格 / 新潟大学教育学部



美術・工芸  
学科

准教授

**手銭 吾郎** Goro Tezeni  
専門分野 / 金属工芸 (鍛金)  
現在の研究課題 / 金属工芸における鍛金技法及び篋紋り技法による造形表現の探究と技術の研究  
最終学歴 + 資格 / 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程工芸専攻 (鍛金) 修士



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**後藤 哲男** Tetsuo Goto  
専門分野 / 建築・都市設計  
現在の研究課題 / 木構造における空間の設計方法に関する研究と実践, バリ都市建設における空間の設計方法に関する研究  
最終学歴 + 資格 / 東京大学工学部都市工学科, 同大学院修士 (工学博士), バリ, エコール・デ・ボザル第6分校卒業, フランス政府公認建築家 (Architecte D.P.L.G.), 一級建築士



建築・環境  
デザイン  
学科

地方創生推進プロジェクト  
チームリーダー  
准教授

**澤田 雅浩** Masahiro Sawada  
専門分野 / 都市計画, 地区防災  
現在の研究課題 / 流動性と多様性に着目した地域計画策定手法  
最終学歴 + 資格 / 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程, 博士 (政策・メディア)



美術・工芸  
学科

教授

**菅野 靖** Yasushi Kanno  
専門分野 / 金属工芸 (彫金)  
現在の研究課題 / 金属と仲良くなること  
最終学歴 + 資格 / 東京藝術大学大学院美術研究科彫金専攻修士課程 (芸術学修士)



美術・工芸  
学科

准教授

**中村 和宏** Kazuhiro Nakamura  
専門分野 / ガラス工芸  
現在の研究課題 / サステナブル (=持続可能) な社会における, ガラス工芸素材による, 造形からの展開と可能性の探究  
最終学歴 + 資格 / 財団法人金沢卯辰山工芸工房工務技術研修員



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**菅原 浩** Hiroshi Sugahara  
専門分野 / 表象文化論, 比較文化論, 外国語教育  
現在の研究課題 / 想像力を起点とした「意識構造+世界構造」の探究  
最終学歴 + 資格 / 東京大学大学院総合文化研究科比較文学・比較文化専攻博士課程 (学術修士)



建築・環境  
デザイン  
学科

准教授

**白鳥 洋子** Yoko Shiratori  
専門分野 / 建築史, 建築設計  
現在の研究課題 / 建築と都市, 再生改修 学歴等 + 資格 / 東京大学大学院工学研究科博士課程修士 (工学博士), バリ第一大学 DEA 課程, エコール・ダルシテジュール DPLG 課程, 東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修士, フランス政府公認建築家, 一級建築士



美術・工芸  
学科

学部長  
教授

**馬場 省吾** Shogo Baba  
専門分野 / 金属工芸 (鍛金造形)  
現在の研究課題 / 鍛金・鋳起技法による素材と造形, 表現の展開及び応用  
最終学歴 + 資格 / 東京藝術大学大学院美術研究科鍛金専攻修士課程 (芸術学修士)



美術・工芸  
学科長

准教授

**長谷川 克義** Katsuyoshi Hasegawa  
専門分野 / 金属工芸 (鍍金)  
現在の研究課題 / 鍍金技法による器物造形の探究及び古代鍍造技術の研究  
最終学歴 + 資格 / 東京藝術大学大学院美術研究科工芸専攻 (鍍金) 修士課程 (美術修士)



建築・環境  
デザイン  
学科

教授

**平山 育男** Ikuo Hirayama  
専門分野 / 建築史, 民家史, 社寺建築, 水道史, 文化財の保存・修復  
現在の研究課題 / 建築物はどのようにして建てられてきたのか  
最終学歴 + 資格 / 早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻博士課程, 博士 (工学), 博士 (造形)



建築・環境  
デザイン  
学科

准教授

**津村 泰範** Yasunori Tsumura  
専門分野 / 建造物保存再生 (調査・計画・設計)  
現在の研究課題 / 保存修復再生技術, 建築の保存継承手法・制度・理念, 近現代建築生産技術史, 文化財や歴史的建造物を活かしたまちづくり 学歴等 + 資格 / 東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程

## デザイン研究開発の相談について

### ① 相談の受付

地域協創センターにて電話等で  
随時受け付けています。

電話 0258-21-3321

Eメール chiiki@nagaoka-id.ac.jp

### ② 内部協議～両者打ち合わせ

頂いた相談内容をセンターで把握し、打合せにて  
詳細内容を再度お伺いいたします。

その後、ご相談内容に沿った最も適切な方策をご  
提案いたします。

デザイン研究開発として教員が業務にあたる場合は、民間企業では業務の遂行が難しいと思われる業務を対象としています。以下がその内容となります。

- ① デザイン、設計、企画等に対するコンサルタント
- ② 技術者に対する高度技術の教育及び研修
- ③ 学術情報の提供（調査含む）
- ④ 共同研究・共同開発

なお、民間企業の業務を阻害するデザイン・設計作業（完成品の納品）はデザイン研究開発の対象外としますが、業務の専門性が高く、県内企業では対応できないと思われるものは相談・対応を検討します。

また自治体、NPO 法人、各種団体などからの非営利での依頼についてはデザイン・設計等も含め相談に応じます。

※その他、学生を交えた研究等を希望される場合は、大学が教育効果が高いと判断した場合に授業として教員と学生がプロジェクトに関わることもあります。

### ③ 主査の決定～業務委託契約

ご相談内容に応じて本学教員の中から適任者（主査）を決定します。業務の方法、期間、予算等について、両者で協議を重ね、業務委託契約を締結し、業務がスタートします。ただし、授業その他の学事が優先されますのでご了承ください。

※両者打ち合わせから契約・業務開始までに最低でも1ヶ月程度かかります。余裕をもってご相談ください。

### ④ 成果物等の提出・業務終了

成果物等を提出し、委託元の検収後、業務終了となります。



平成 27 年度

長岡造形大学デザイン研究開発

発行日：平成 28 年 8 月 31 日

発 行：長岡造形大学地域協創センター

940-2088 新潟県長岡市千秋 4 丁目 197 番地

Tel. 0258-21-3321 Fax. 0258-21-3343

URL <http://www.nagaoka-id.ac.jp/>

E-mail [chiiki@nagaoka-id.ac.jp](mailto:chiiki@nagaoka-id.ac.jp)

本書の図版及び文章の無断転載を禁じます。

©2016 Nagaoka Institute of Design

長岡造形大学デザイン研究開発のこれまでの活動報告については

上記 URL からご覧いただけます。



公立大学法人

**長岡造形大学**

Nagaoka Institute of Design